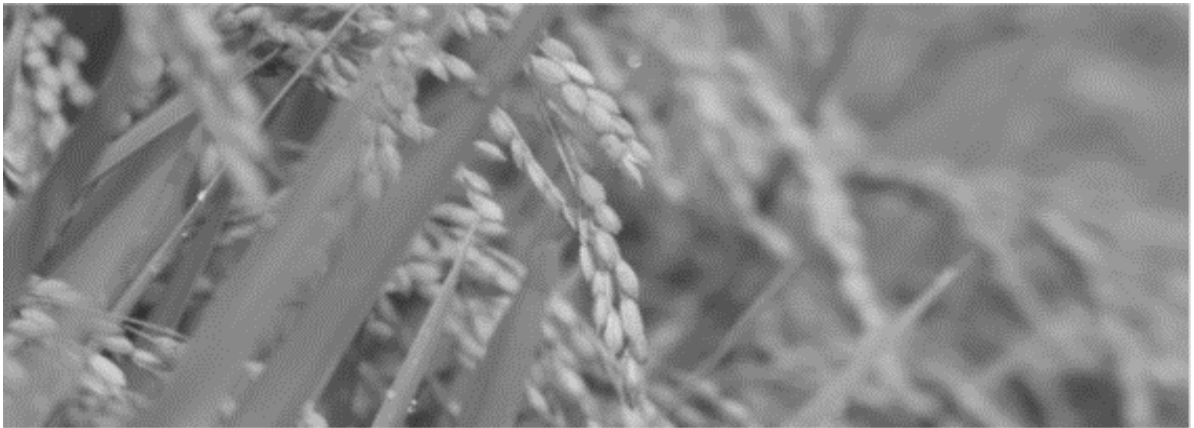


# ◆ 大田区 ◆

# 中小企業の景況

平成25年7月～9月期



## 目 次

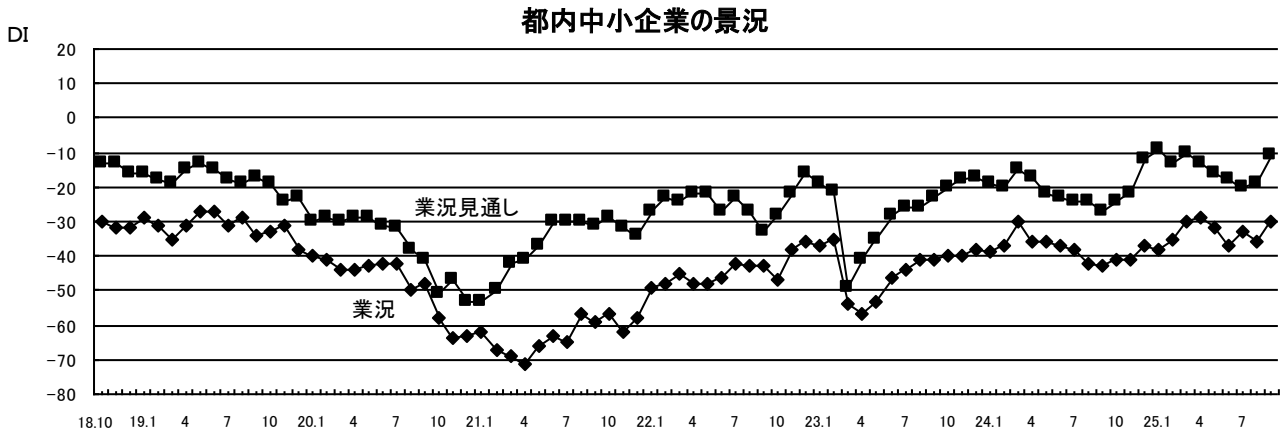
平成25年7月～9月期の都内中小企業の景況……………	1
大田区 今期の特徴点……………	2
製造業……………	3
小売業……………	9
日銀短観……………	15
東京都と大田区の企業倒産動向……………	15
特別調査「中小企業における資金調達について」……………	16
中小企業景況調査 比較表・転記表……………	20

大田区産業経済部産業振興課

調査実施機関 株式会社 東京商工リサーチ

# 平成 25 年 7 月～9 月期の都内中小企業の景況

**業況：製造業、卸売業で大きく改善**  
**見通し：卸売業、小売業は非常に大きく改善する見込み**



業況DI（季節調整済、業況が「良い」とした企業割合－「悪い」とした企業割合）は△30（前期は△37）と前期比で7ポイント増加し、かなり持ち直した。今後3か月間の見通しでは大幅に改善すると見込まれている。

	今 期(25.6)	今 期(25.9)	増 減	今後3か月間 の見通し
製 造 業	△ 36	△ 22	14	△ 11
卸 売 業	△ 41	△ 32	9	△ 6
小 売 業	△ 48	△ 52	△ 4	△ 16
サービス業	△ 25	△ 23	2	△ 12
総 合	△ 37	△ 30	7	△ 11

9月の都内中小企業の業況DI（業況が「良い」とした企業割合－「悪い」とした企業割合）は、前期比7ポイント増の△30とかなり持ち直した。今後3か月間（10～12月）の業況見通しDIでは、△11と大幅に改善すると見込まれている。

都内中小企業の業況DIを業種別にみると、製造業（△22）は14ポイント増、卸売業（△32）は9ポイント増と大きく改善し、サービス業（△23）は2ポイント増とわずかに改善した。小売業（△52）は4ポイント減と低調感を幾分強めた。なお、仕入価格DI（仕入単価が「上昇」とした企業割合－「低下」とした企業割合）をみると、製造業（19）は7ポイント増と上昇をかなり強め、卸売業（14）は3ポイント増とやや上昇を強めた。小売業（△1）は2ポイント増と良好感に幾分かげりが出た。一方、販売価格DI（販売単価が「上昇」とした企業割合－「低下」とした企業割合）は、小売業（△8）は4ポイント増で厳しさが和らぎ、卸売業（0）は1ポイント増でほぼ前期並ながら水面下を脱した。製造業（△8）は1ポイント増で前期並の厳しさが続き、サービス業（△14）は5ポイント減で幾分厳しさを強めた。

今後3か月間（10～12月）の業況見通しDIを業種別にみると、小売業（△16）は36ポイント増、卸売業（△6）は26ポイント増と非常に大きく改善し、製造業（△11）とサービス業（△12）はともに11ポイント増と、厳しさがかなり和らぐと見込まれている。

## 【注】

○D. I (Diffusion Indexの略)

D. I (ディーアイ) は、増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季節調整済）D. I

季節調整済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すD. Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD. I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。

# 大田区 今期の特徴点 (平成25年7月~9月期)

景気予報							
製造業	20 以上	19~10	9~0	△1~△10	△11~△20	△21~△30	△31 以下
小売業	10 以上	9~0	△1~△10	△11~△20	△21~△30	△31~△40	△41 以下
	好調	←—————→					不調

## 製造業



製造業の業況は、今期△39と水面下ながら幾分改善した。売上額は△27とかなり持ち直し、収益は△36と大きく改善した。価格動向を見ると、原材料価格は30と前期並の上昇を続け、販売価格は△21と前期並の下降が続いた。在庫は7と過剰感が大きく緩和し、資金繰りは△33と窮屈感がかなり弱まった。

業況が幾分改善した要因としては、売上額および収益が改善したことに加えて、「在庫の過剰感が大きく緩和した」ことも好材料となったと考えられる。

経営上の問題点では「同業者間の競争の激化」「原材料高」などが、前期より減少した。

## 小売業

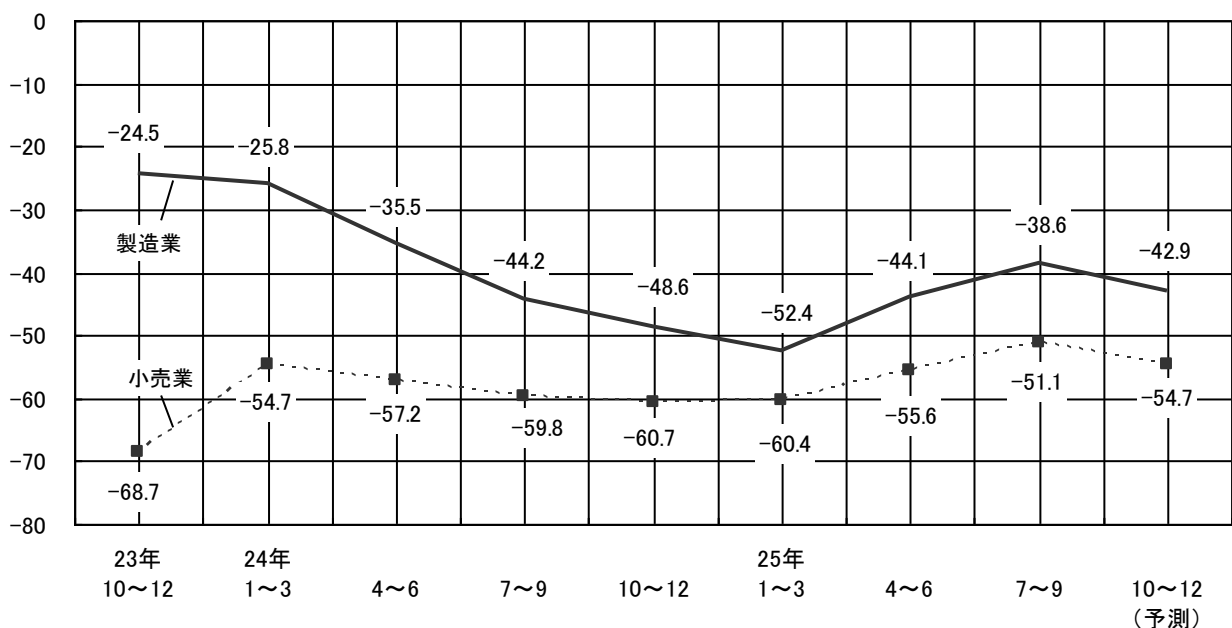


小売業の業況は、今期△51とわずかに上向いた。売上額は△53とかなり低迷し、収益は△55と減少を大きく強めた。価格動向を見ると、販売価格は△24とわずかに下降を強め、仕入価格は16と上昇がかなり弱まり落ち着きを見せた。在庫は10と過剰感が幾分改善した。資金繰りは△44とかなり厳しさが増した。

業況がわずかに上向いた要因としては、「仕入価格の上昇がかなり弱まった」点や、販売価格は今期わずかに下降を強めたものの、平成25年1~3月期以降改善基調で推移している点に加えて、「在庫の過剰感が幾分緩和した」ことも好材料となったと考えられる。

経営上の問題点では「同業者間の競争の激化」などが、前期より減少した。

### 各業種別業況の動き(実績)と来期の予測



# 製造業

## 売上・収益の動向と業況判断

今期の業況は前期△44 から今期△39 と水面下ながら幾分改善した。売上額は前期△33 から今期△27 とかなり持ち直し、収益は前期△43 から今期△36 と大きく改善した。受注残は前期△33 から今期△29 と大幅に持ち直した。

## 価格・在庫動向

原材料価格は前期 30 から今期 30 と前年並の上昇を続け、販売価格は前期△21 から今期△21 と前年並の下降が続いた。在庫は前期 14 から今期 7 と過剰感が大きく緩和した。

## 資金繰り・借入金動向

資金繰りは前期△39 から今期△33 と窮屈感がかなり弱まった。また、借入難易度は前期 3 から今期△3 と厳しい状況に転じた。借入をした企業は今期 33%とわずかに増加した。

## 経営上の問題点・重点経営施策

経営上の問題点については、1 位「売上の停滞・減少」66%、2 位「利幅の縮小」30%、3 位「同業者間の競争の激化」17%、4 位「原材料高」15%、5 位「工場・機械の狭小・老朽化」14%となった。前期との比較で主だった動きは、「同業者間の競争の激化」が6ポイント減少し、「原材料高」は5ポイント減少した。更に業種別にみると、「同業者間の競争の激化」は[一般機械器具・金型]（前期 24%→今期 14%）で 10 ポイント減少し、[金属製品・建設用金属・金属プレス]（19%→13%）も 6 ポイント減少した。一方、「原材料高」は[金属製品・建設用金属・金属プレス]（19%→7%）で 12 ポイント減少し、[輸送用機械器具]（26%→19%）と[一般機械器具・金型]（21%→14%）も共に 7 ポイント減少したが、[精密機械器具]（6%→22%）で 16 ポイント増加し、業種による違いがみられた。

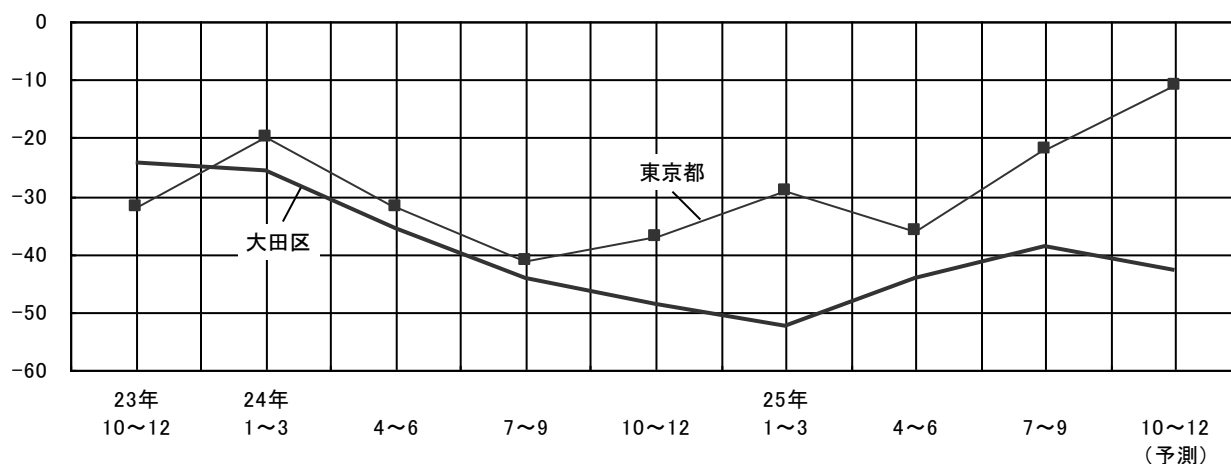
重点経営施策では、1 位「販路を広げる」57%、2 位「経費を節減する」47%、3 位「新製品・技術を開発する」29%、4 位「人材を確保する」21%、5 位「情報力を強化する」20%であった。

前期と比較すると、3 位までは同じ項目が並んだが、4 位の「人材を確保する」が前期 5 位から順位を上げ、5 位の「情報力を強化する」が前期 4 位から順位を下げた。

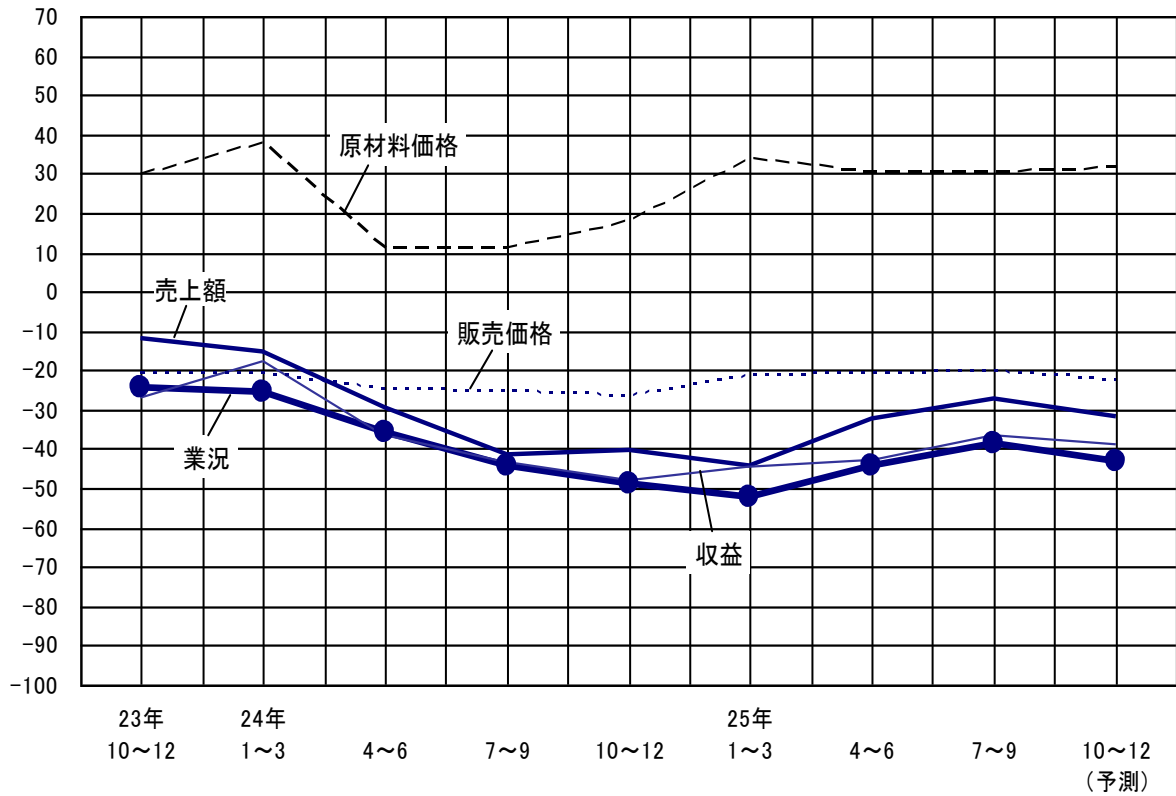
## 来期の見通し

来期は、業況は厳しさを幾分強め、売上額も減少をわずかに強め、収益も幾分低迷すると見込まれている。また、原材料価格はわずかに上昇を強め、販売価格は下降を幾分強めると予測されている。

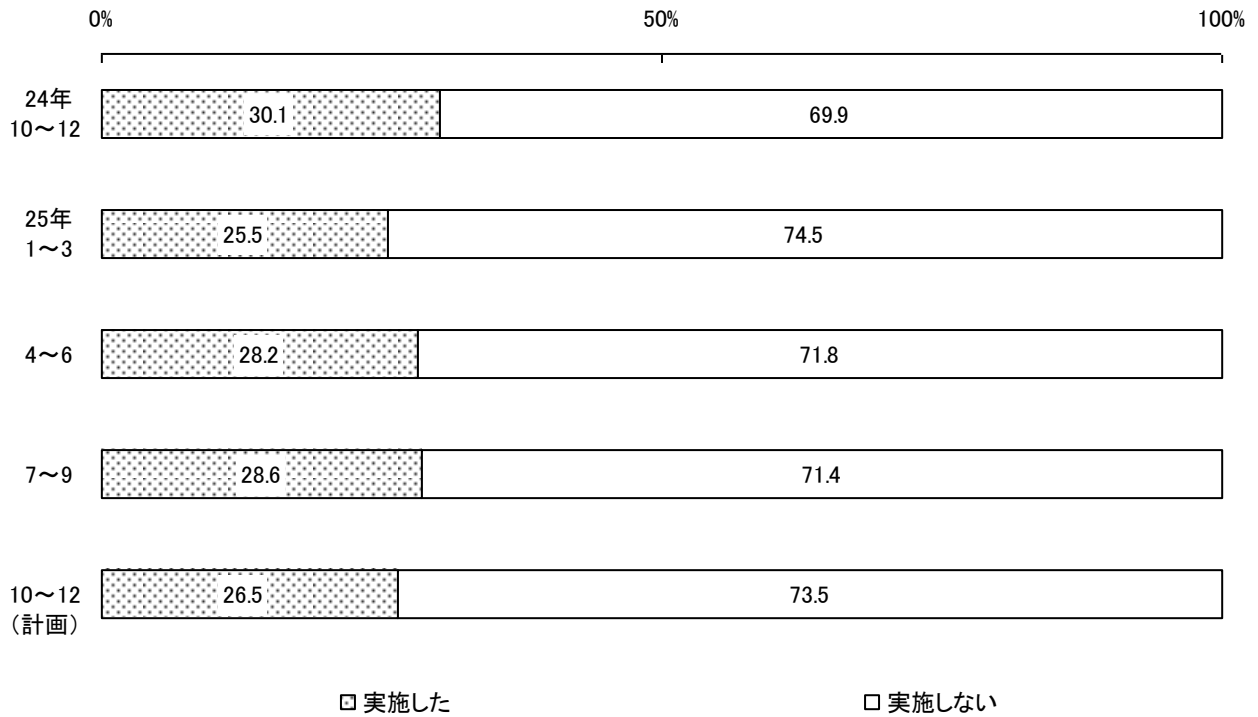
### 大田区と全都の製造業・業況の動き（実績）と来期の予測



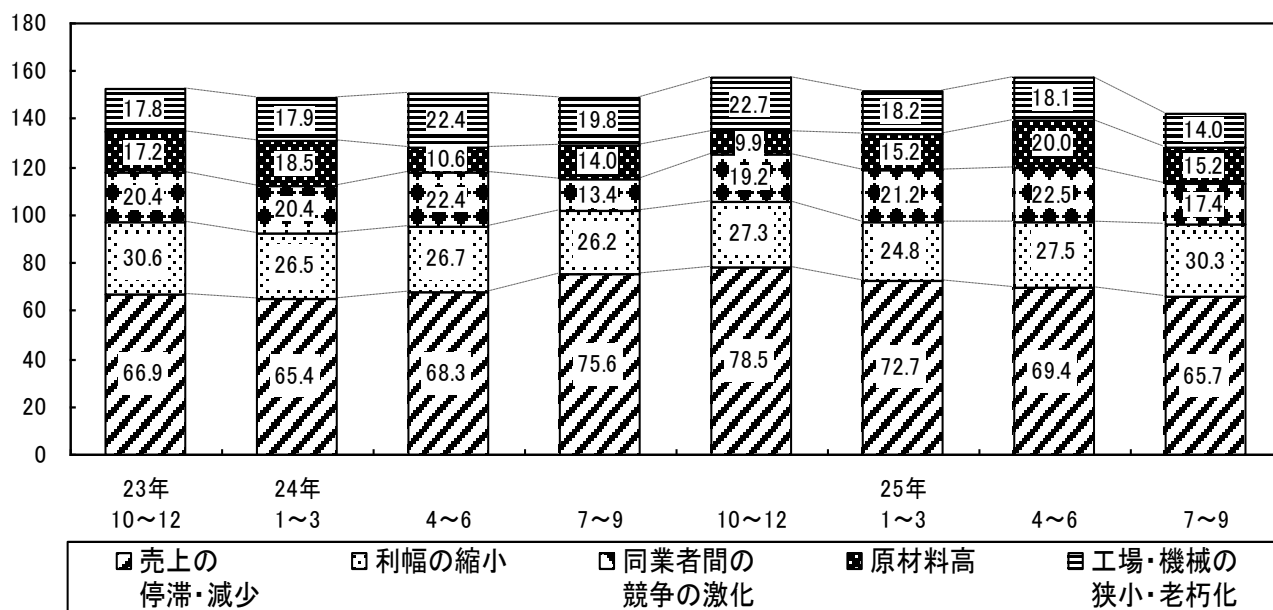
## 業況と売上額、収益、販売価格、原材料価格の動き（実績）と来期の予測



## 設備投資動向

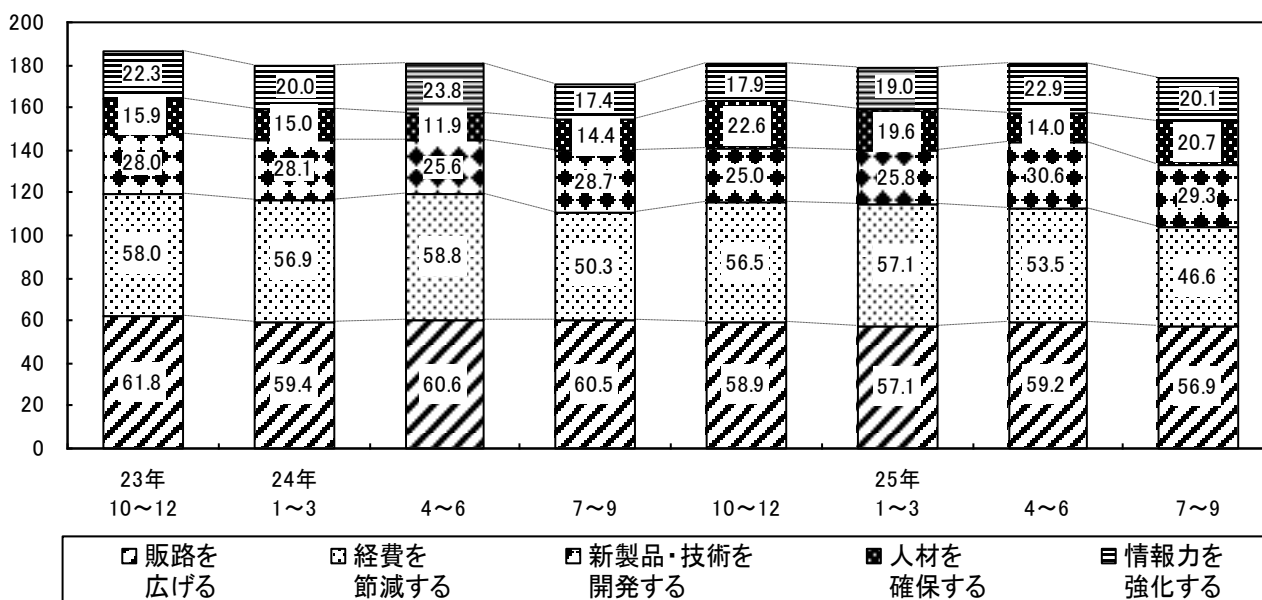


## 製造業 経営上の問題点 (%)



	24年10~12月期		25年1~3月期		25年4~6月期		25年7~9月期	
第1位	売上停滞・減少	78.5 %	売上停滞・減少	72.7 %	売上停滞・減少	69.4 %	売上停滞・減少	65.7 %
第2位	利幅の縮小	27.3 %	利幅の縮小	24.8 %	利幅の縮小	27.5 %	利幅の縮小	30.3 %
第3位	工場・機械の狭小・老朽化	22.7 %	同業者間の競争の激化	21.2 %	同業者間の競争の激化	22.5 %	同業者間の競争の激化	17.4 %
第4位	同業者間の競争の激化	19.2 %	工場・機械の狭小・老朽化	18.2 %	原材料高	20.0 %	原材料高	15.2 %
第5位	販売納入先からの値下げ要請	18.6 %	原材料高	15.2 %	工場・機械の狭小・老朽化	18.1 %	工場・機械の狭小・老朽化	14.0 %

## 製造業 重点経営施策 (%)



	24年10~12月期		25年1~3月期		25年4~6月期		25年7~9月期	
第1位	販路を広げる	58.9 %	販路を広げる	57.1 %	販路を広げる	59.2 %	販路を広げる	56.9 %
第2位	経費を節減する	56.5 %	新製品・技術を開発する	25.8 %	経費を節減する	53.5 %	経費を節減する	46.6 %
第3位	新製品・技術を開発する	25.0 %	人材を確保する 教育訓練を強化する	19.6 %	新製品・技術を開発する	30.6 %	新製品・技術を開発する	29.3 %
第4位	人材を確保する	22.6 %	情報力を強化する	19.0 %	情報力を強化する	22.9 %	人材を確保する	20.7 %
第5位	情報力を強化する	17.9 %	提携先を見つける	9.2 %	人材を確保する	14.0 %	情報力を強化する	20.1 %

## 業種別動向

### (1) 輸送用機械器具

業況（前期 $\Delta 26 \rightarrow$ 今期 $\Delta 35$ ）は厳しさを大幅に増した。売上額（ $\Delta 27 \rightarrow \Delta 33$ ）は大きく低迷し、収益（ $\Delta 32 \rightarrow \Delta 45$ ）も減少を大幅に強めた。価格動向を見ると、原材料価格（ $23 \rightarrow 16$ ）は上昇がかなり弱まり、販売価格（ $\Delta 15 \rightarrow \Delta 19$ ）は下降傾向を幾分強めた。在庫（ $13 \rightarrow 6$ ）は調整が大幅に進み、資金繰り（ $\Delta 33 \rightarrow \Delta 24$ ）は厳しさがかなり和らいだ。

### (2) 電気機械器具

業況（ $\Delta 39 \rightarrow \Delta 21$ ）は水面下ながら大きく上向いた。売上額（ $\Delta 31 \rightarrow \Delta 12$ ）は大幅に持ち直し、収益（ $\Delta 49 \rightarrow \Delta 21$ ）は極端に改善した。原材料価格（ $25 \rightarrow 37$ ）は上昇が大幅に強まり、販売価格（ $\Delta 28 \rightarrow \Delta 23$ ）は厳しさが幾分和らいだ。在庫（ $22 \rightarrow 5$ ）は過剰感が大きく緩和し、資金繰り（ $\Delta 37 \rightarrow \Delta 33$ ）はわずかながら窮屈感が緩和した。

### (3) 一般機械器具、金型

業況（ $\Delta 42 \rightarrow \Delta 43$ ）は前期並の厳しさを推移した。売上額（ $\Delta 22 \rightarrow \Delta 29$ ）は減少を大きく強め、収益（ $\Delta 36 \rightarrow \Delta 34$ ）は幾分持ち直した。原材料価格（ $36 \rightarrow 30$ ）は上昇がかなり弱まり、販売価格（ $\Delta 26 \rightarrow \Delta 27$ ）は前期並の下降が続いた。在庫（ $4 \rightarrow 11$ ）は大きく積み増し、資金繰り（ $\Delta 47 \rightarrow \Delta 38$ ）は窮屈感がかなり緩和した。

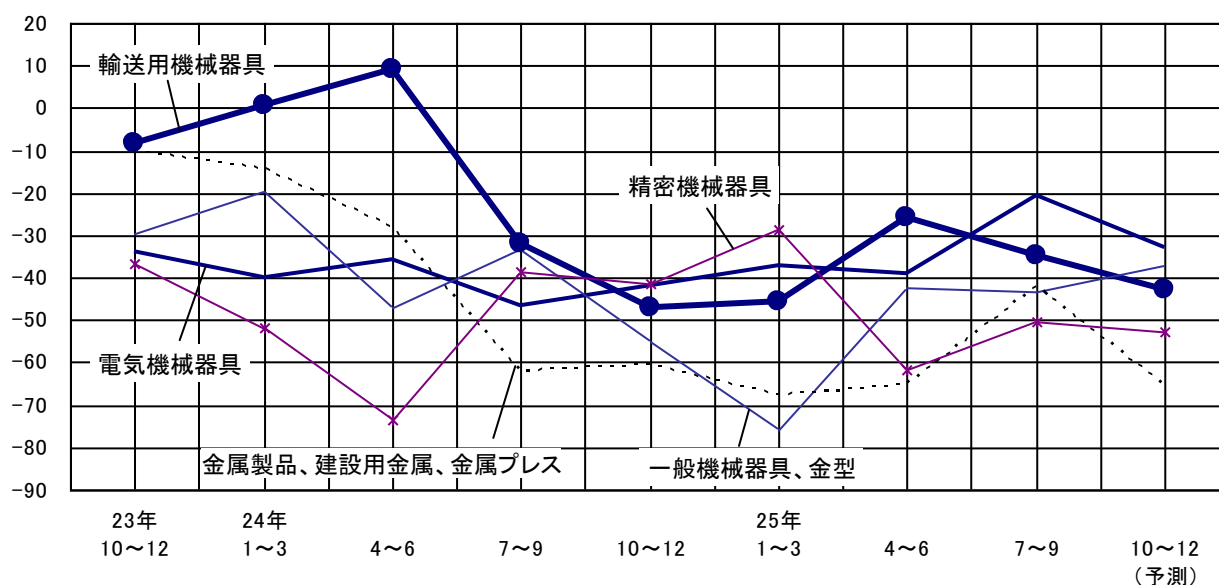
### (4) 金属製品、建設用金属、金属プレス

業況（ $\Delta 65 \rightarrow \Delta 43$ ）は水面下ながら極端に改善した。売上額（ $\Delta 53 \rightarrow \Delta 25$ ）、収益（ $\Delta 51 \rightarrow \Delta 37$ ）ともに、非常に大きく持ち直した。販売価格（ $\Delta 26 \rightarrow \Delta 23$ ）は厳しさが幾分和らぎ、原材料価格（ $17 \rightarrow 16$ ）は前期並の上昇が続いた。在庫（ $12 \rightarrow 15$ ）は過剰感が幾分強まり、資金繰り（ $\Delta 45 \rightarrow \Delta 42$ ）は厳しさが幾分緩和した。

### (5) 精密機械器具

業況（ $\Delta 62 \rightarrow \Delta 51$ ）は水面下ながら大きく改善した。売上額（ $\Delta 50 \rightarrow \Delta 28$ ）、収益（ $\Delta 71 \rightarrow \Delta 44$ ）ともに、非常に大きく持ち直した。販売価格（ $\Delta 17 \rightarrow \Delta 20$ ）は下降をわずかに強め、原材料価格（ $49 \rightarrow 33$ ）は上昇がかなり弱まった。在庫（ $19 \rightarrow 1$ ）は大幅に調整が進んで適正範囲となり、資金繰り（ $\Delta 32 \rightarrow \Delta 20$ ）は厳しさがかなり和らいだ。

業種中分類別の業況の動き（実績）と来期の予測



## コメント《製造業》

### ＜輸送用機械器具＞

1. 消費税増税前の駆け込みが出てきており、受注見通しが上方修正となってきた。
2. 震災後よりはだいぶ持ち直していますが、いろいろな面で問題は多い。
3. 消費税アップ前に一時的な需要増が見込まれ、対応出来るか心配。
4. 先の受注が見えない。
5. 円高により単価 30%引き下げたままで現在取引。仕事は過剰ですが資金面で不足です。
6. 実態は自動車部品などごく一部で、アベノミクスの期待はそんなに変化はない。来年の消費税増税で景気が冷え込むのは間違いないです。
7. 円安による材料高。
8. 取引先の海外移転計画は今後も進む予定であり、既存取引先の売上減は避けられない。
9. 現在はリーマンショックより仕事量が少ない。収益の増減というより、仕事が出てこない。借入は出来るが仕事の保証がないので長期借入は出来ない。政府の景気上向きとの見解はどんな企業を見て言っているのか？

### ＜電気機械器具＞

1. 大企業との取引が多いため（全体の6割）、少しずつ景気の波が良い方向に向かいつつある。また、ベンチャー系も少しずつ動きが出てきている。フル生産に近い状況になってきている。しかし、業種（プリント基板実装の業界）はひどく低調である（大企業の内製化の強化のため）。
2. 昨年末以降、見積りや検討の依頼は増えていますが、利幅が少なく、競争が厳しく受注率が落ちています。回復の実感まではもう少しといったところです。
3. 一部の半導体装置関係はとても良いです。しかし、その他は良くなく、先行きは不安です。
4. 取引工場が地方へ引っ越してしまい、客が少なくなった。見積りは来るが受注までは前のようになかなかいかない。
5. エネルギー価格が上がり、インフレ傾向にあるが給与は下がっている。売上も下落しているので、中小企業にとってはスタグフレーション状態である。
6. 震災の影響で冷えていた設備投資が動き出した。現在も新製品の開発等の試作依頼が多数あります。
7. 大手企業の製品の海外調達が大きくひびいている事と、生産拠点を海外に移していくために、国内での生産が減少して、価格競争が激化をしている。
8. 少し、景気は上向いた感じはします。弊社は大手メーカーのグループ企業との取引が多く、

価格及び環境面（RoHS）に少し時間がとられる事が多いです（提出書類が多い）。その為の専門的な人材確保がこの先より必要になる感じがします。

9. 今年に入り受注が減少して厳しい状況が続いており、今後改善される見通しもあまり見えてこないのが不安はあります。政府の経済対策も大手企業には効果はあっても、町工場にはあまりというかほとんど実感がありません。
10. やや良くなって来ていると思う。

### ＜一般機械器具、金型＞

1. 港湾・河川関係の工事資材でほとんど官需によるゼネコンからの注文が多い。工事発注が少なく低迷していたが、10月に入って引き合いが増えてきた。
2. オリジナル製品を持ち、スモールメーカーとして今期は順調です。10～12月も悪くないと思っております。
3. あまりにも悪い状況なのでコメントする気になれない。
4. 零細企業の私どもには、一向に世間でいう好景気感はありません。
5. 対前年 3～6月にかけて減収・減益となり、資金繰りもやや苦しい状況であった。7～9月にかけて売上増加傾向にあり、最終的には前年度より増収が見込まれる。
6. 景気回復の実感が得られない。少しずつ資金繰りが厳しくなっている。
7. 上場企業は為替益で高収益を上げている。製造業では土木建設を中心にインフラに関係する所は忙しい様である。設備機械関係は、中国市場が停滞しており、未だ回復に至っていない。忙しい所とそうでない所の二極化しているようである。製造業の中小外注先では後継者難で2件、年内廃業を決めている。減少が続いている。
8. 横ばい状態で良くも悪くもならない。
9. 最終ユーザーが国外へ転出し、転出先国での現地調達を強く要望のため、国内生産がダウン。また、価額も現地との競合となるため、製品価額も大幅にダウン。
10. 8月は過去最低の売上げでした。先の見通しが出来ない状況。このままなら人件費を減らす予定。

### ＜金属製品、建設用金属、金属プレス＞

1. 昨年より売上が少し回復してきました。本年度一杯これが続いてくれたら、経営が大分楽になります。
2. 売上減少で利益も縮小（赤字）が続き、不動産を売却して賃貸で工場を使用することで人数も減らして行くことが最適と思う。



3. 弊社は、以前、量産部品を取り扱っていたが受注が減り、機械設備を廃棄して手動でめっき加工を行っている。今後も少量多種で価格の割高な製品を確保する予定です。客先もそのような業務内容の所と積極的に取引しようと考えています。
4. 景気低迷による売上の停滞減少。競争激化による塗装単価の低迷。
5. 再生初期のため運転賃金のプールが出来ない。
6. 当社は建機の部品加工で（下請け）、輸出が回復しつつあり（親会社が）、当社は恵まれている方だと思う。
7. 4～9月まで親会社で仕事量が不足していて、当社も従業員が月の内3分の1くらいしか出社できませんでした。なんとか製造業が元気になってくれるといいのですが。
8. 取引先からの依頼の量によって大変左右される。
9. 多種・少量、短納期、原材料値上。
10. 取引先からの見積り要請はあるが、競争激化で、なかなか受注することが難しくなっている。
10. 航海計器の保守が主な仕事のため、造船・海運の景気に左右されます。現在は両者共不況下にあり厳しい状況が続いております。親会社は全面的に協力してくれていますが、親会社さえも厳しい状況にあります。
11. 世の中、特に都市部はアベノミクス、オリンピック景気でさわがれているが、恩恵にあずかっているのは大企業だけで零細企業には景気が向上している実感はまったく無い。数年先の見通しが不透明であらゆる設備投資は不可能である。
12. 製造委託先が、不景気等の理由に依り大幅な人員削減を行なったため、納期（希望する）の確保が困難になっている。委託先の変更も視野に入れているが、金型等の設備の移動にも莫大な費用が発生する。
13. 設備投資と言いましても、その事が売上に直接つながる事なら良いのですが、当社の場合、設備は”測定器”になります。最新の測定器が必要（取引相手に対しての”説得力”になります）。しかしながら、高価な測定器はそのものに生産性はありません（技術があっても評価されません）。
14. 大手企業の設備投資予算が極端に圧縮され、老朽化が進む。試験装置の更新はもちろん補修、改修費用の捻出も難しい状況が続いており、弊社の売上も、新規製作品も皆無に近い状態で、相変わらず厳しい環境です。

#### <精密機械器具>

1. 補正予算がついて、現在受注が増加している。しかし全体を見ると売上の増減が激しく苦労している。
2. 多少なりとも取引のある会社、商社、工場の廃業や解散など物造りの環境が小さくなってゆくことに不安を感じています。
3. 今期（7～9月）は前年同期に比較して、売上、収益の増加がみられた。この原因は何なのか。当社は建設現場で使用するセンサー製造業であり、建設計画は数ヶ月、数年以前からのものが現在の発注になって来る。来年4月からの消費税増税実施前の前倒し現象だとすると、来年4月以降、売上・収益増の継続を期待することは危険であろう。東京オリンピックに向けた建設動向に注目したい。
4. いつもアンケートを出していますが、世の中悪くなる事はあるとしても良くなる事がない。明日はいい事があるだろうと頑張っているが、希望が見えない。工場の撤退、倒産、みな頑張ってきた人ばかりである。政治が悪い。物造りの人達に愛の手がない。
5. 来年の消費税増税により、不安になる。
6. 今年に入ってから、メインの取引先からの受注が大幅に減少した。
7. 1日も早く新商品開発を望みたい。
8. 円安になったからって変わらない。客先の海外生産へのシフトは加速している。為替リスク回避だろう。
9. リーマンショック時と同じような不況感。周りが良いと思っている分、対応に苦慮する。減っている確定した理由が見当たらない。全然受注が増えてこない。

#### <ほか製造業>

1. 大手ユーザーの海外生産、現地調達の動きが進んできています。新規ユーザーでその受注減少分をカバーし±0 となっていますが、なんとか海外生産の動きを政策により止めてほしいと願っています。
2. 大手得意先の海外移転により大幅に売上が減少し、それが未だに影響している。今回代表者老齢化により引退を決意し、1～2年後を目処に交替を予定している。廃業までは行かないと思うが、50年経つのでこの辺で経営を見直したい。
3. 新商品の開発。
4. 委託加工依頼品の減少。
5. 弊社は自動車の売れ行きが業績を大きく左右します。前期は自動車の売れ行きが低調で収益ダウンとなりましたが、来期はかなり好調な受注予定を客先から提示されております。
6. 大手企業の注文で問題がなかったのですが、先方が縮小となったため、注文が減少してきました。
7. 売上・収益は、今は順調。若い人材の確保が必要。
8. 他社に先駆けて3Dプリンターを取り扱っているため、今回のブームで絶好調です。

# 小 売 業

## 売上・収益の動向と業況判断

業況は、前期△56 から今期△51 とわずかに上向いた。売上額は前期△37 から今期△53 とかなり低迷し、収益は前期△49 から今期△55 と減少を大きく強めた。

## 価格・在庫動向

販売価格は前期△21 から今期△24 とわずかに下降を強めたが、平成 25 年 1～3 月期以降△20 台を改善基調で推移している。仕入価格は前期 26 から今期 16 と上昇がかなり弱まり落ち着きを見せた。在庫は前期 12 から今期 10 と過剰感が幾分改善した。

## 資金繰り・借入金動向

資金繰りは前期△38 から今期△44 とかなり厳しさが増した。借入難易度は前期△1 から今期△15 と窮屈感を大きく強めた。今期借入を実施した企業は 23%とほぼ前期並で推移した。

## 経営上の問題点・重点経営施策

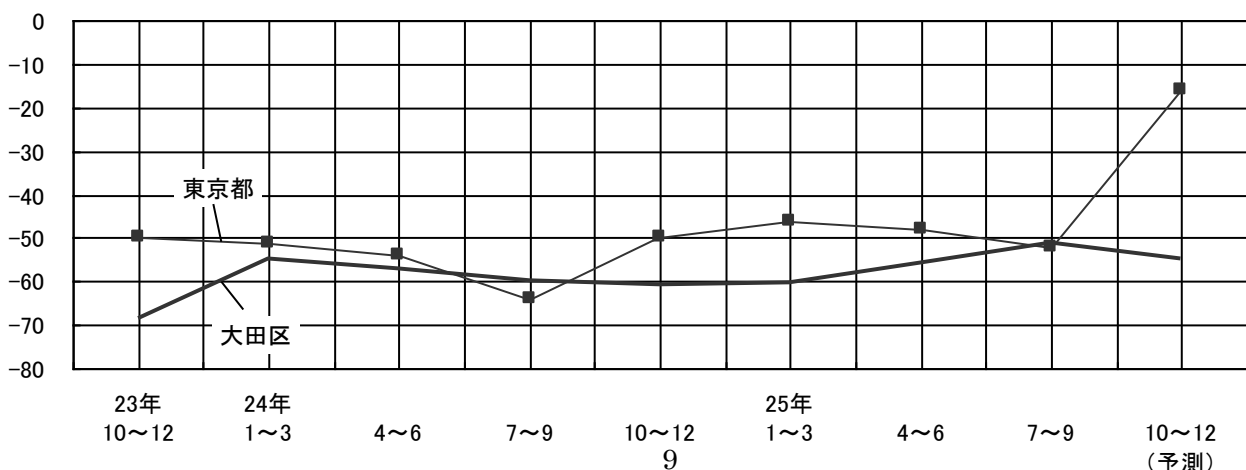
経営上の問題点は、1 位「売上の停滞・減少」61%、2 位「取引先の減少」24%、3 位「利幅の縮小」23%、4 位「同業者間の競争の激化」22%、5 位「商店街の集客力の低下」20%となった。前期との比較で主だった動きは、「同業者間の競争の激化」が 6 ポイント減少した。更に業種別にみると、「同業者間の競争の激化」は[飲食店](33%→0%)の 33 ポイント減少を筆頭に、[衣服、身の回り品](23%→9%)で 14 ポイント減少、[飲食料品](40%→29%)で 11 ポイント減少、[家具・家電](43%→36%)で 7 ポイント減少した。

重点経営施策については、1 位「経費を節減する」が 57%で最も多く、以下、2 位「品揃えを改善する」と「売れ筋商品を扱う」がともに 30%、3 位「宣伝・広報を強化する」20%、4 位「仕入先を開拓・選別する」17%、5 位「人材を確保する」16%となった。前期と比較すると、1 位と 2 位の「品揃えを改善する」は変わらなかったが、前期同率 6 位だった「売れ筋商品を扱う」が同率 2 位へ、前期 4 位だった「宣伝・広報を強化する」が 3 位へ、前期同率 6 位だった「人材を確保する」が 5 位と順位を上げた。

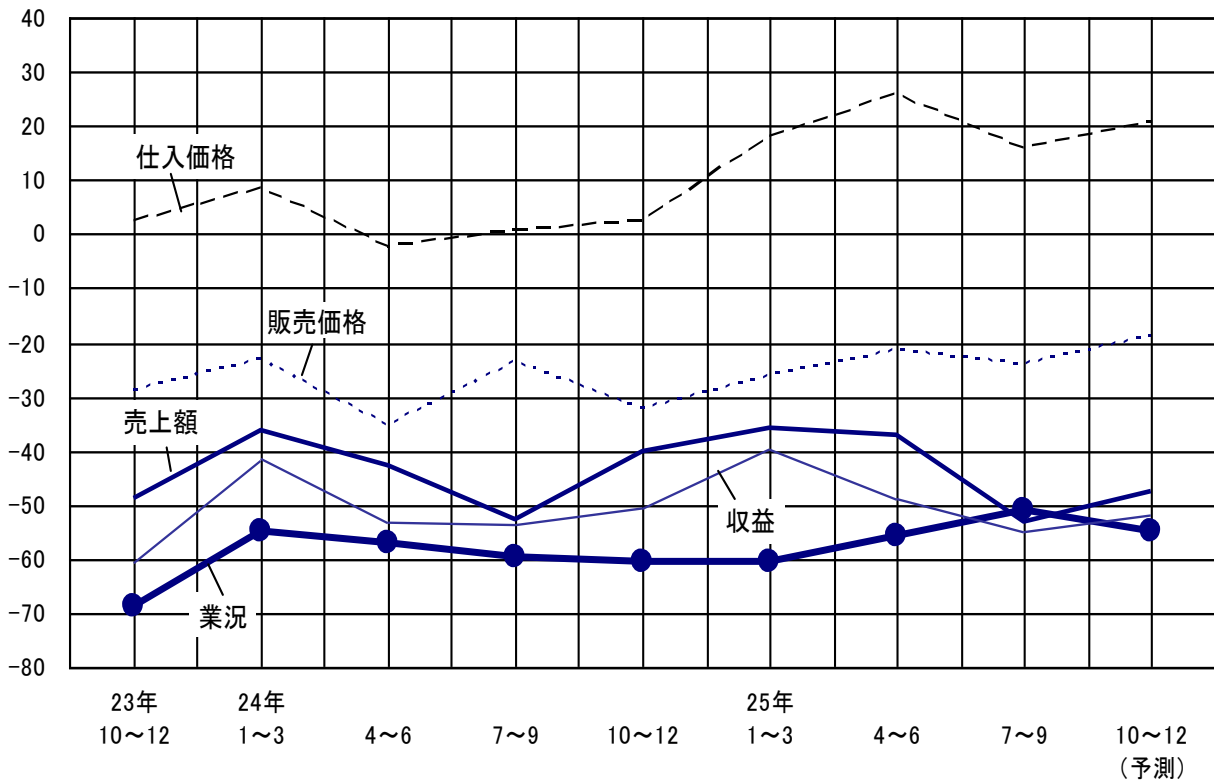
## 来期の見通し

来期は、業況はわずかに悪化が強まり、売上額は幾分改善し、収益もわずかに持ち直すと予測されている。販売価格は下降傾向が幾分改善し、仕入価格は上昇がわずかに強まると見込まれる。

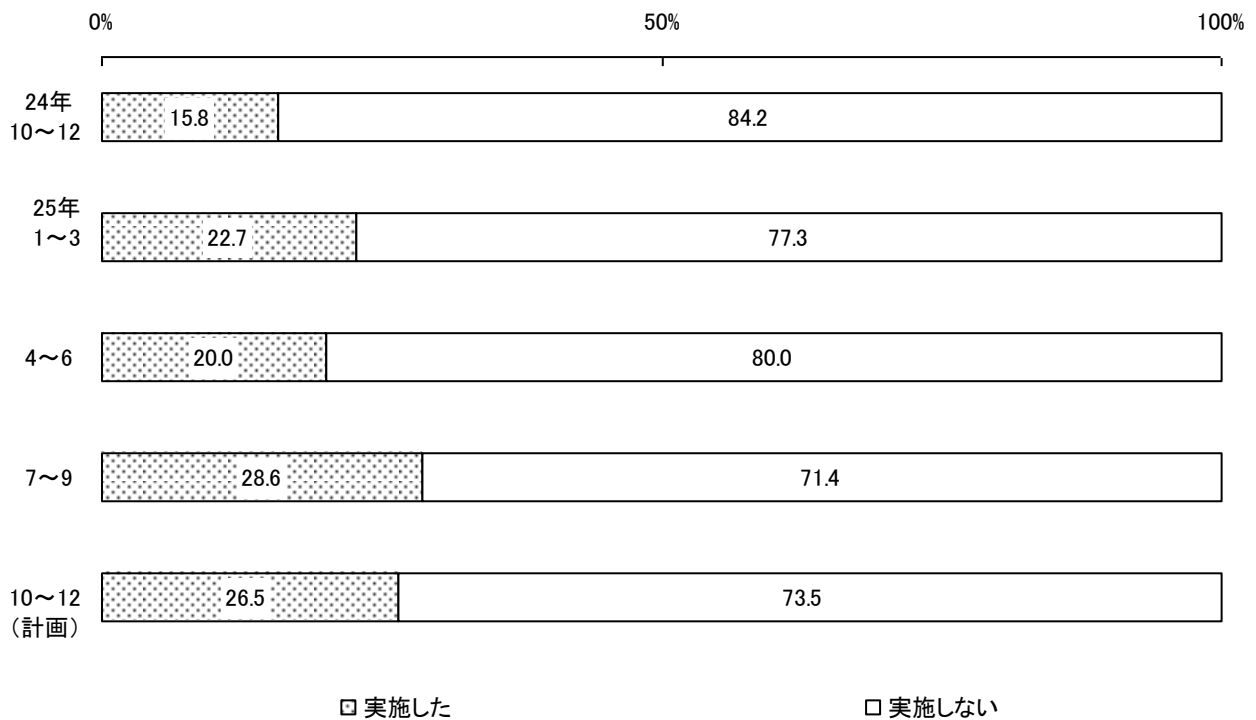
## 大田区と全都の小売業・業況の動き（実績）と来期の予測



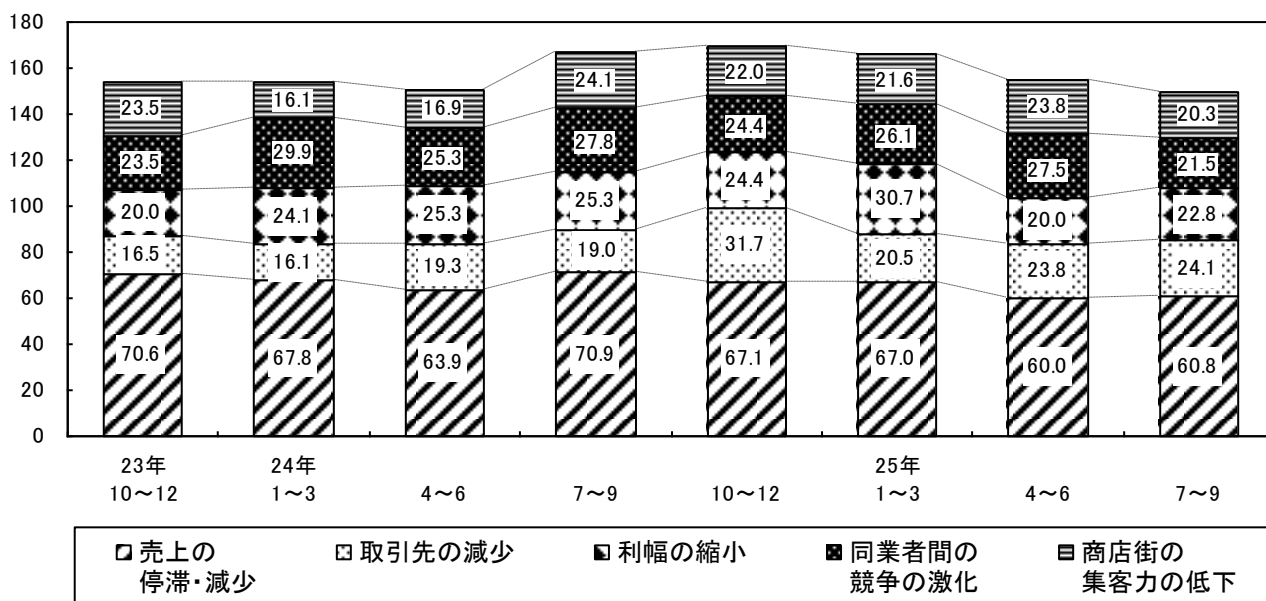
## 業況と売上額、収益、販売価格、仕入価格の動き（実績）と来期の予測



## 設備投資動向

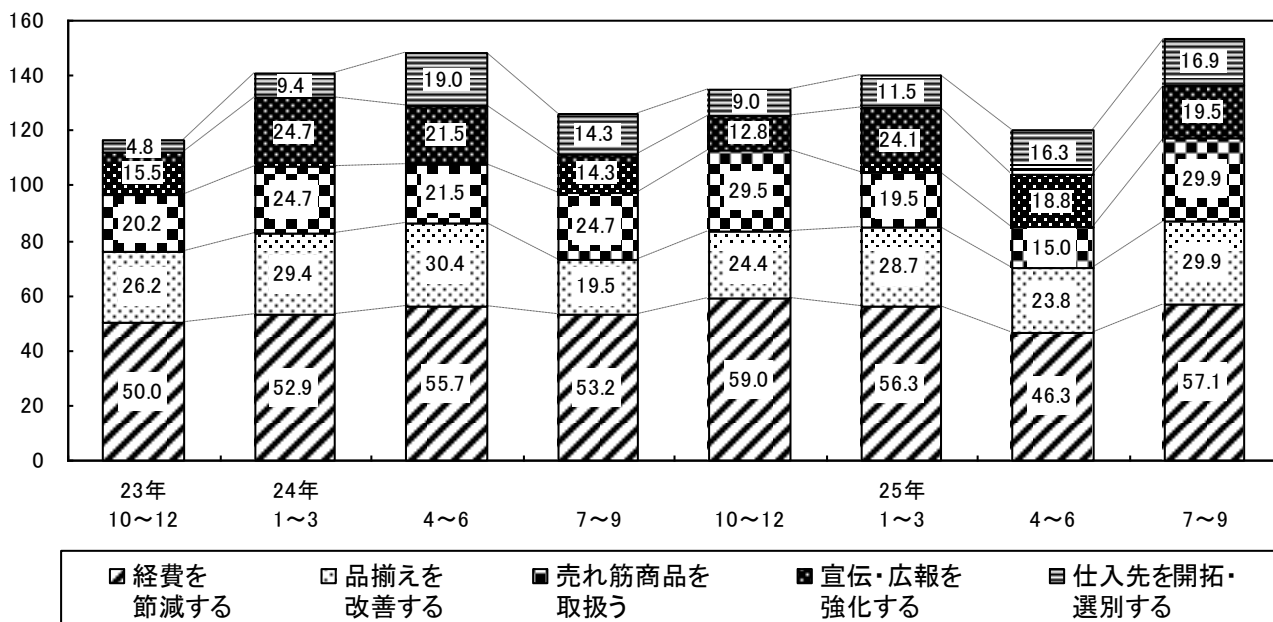


## 小売業 経営上の問題点 (%)



	24年10~12月期		25年1~3月期		25年4~6月期		25年7~9月期	
第1位	売上の停滞・減少	67.1 %	売上の停滞・減少	67.0 %	売上の停滞・減少	60.0 %	売上の停滞・減少	60.8 %
第2位	取引先の減少	31.7 %	利幅の縮小	30.7 %	同業者間の競争の激化	27.5 %	取引先の減少	24.1 %
第3位	同業者間の競争の激化	24.4 %	同業者間の競争の激化	26.1 %	取引先の減少	23.8 %	利幅の縮小	22.8 %
	利幅の縮小	24.4 %			商店街の集客力の低下	23.8 %		
第4位	商店街の集客力の低下	22.0 %	商店街の集客力の低下	21.6 %	利幅の縮小	20.0 %	同業者間の競争の激化	21.5 %
第5位	大型店との競争の激化	14.6 %	取引先の減少	20.5 %	大型店との競争の激化	13.8 %	商店街の集客力の低下	20.3 %

## 小売業 重点経営施策 (%)



	24年10~12月期		25年1~3月期		25年4~6月期		25年7~9月期	
第1位	経費を節減する	59.0 %	経費を節減する	56.3 %	経費を節減する	46.3 %	経費を節減する	57.1 %
第2位	売れ筋商品を取扱う	29.5 %	品揃えを改善する	28.7 %	品揃えを改善する	23.8 %	品揃えを改善する	29.9 %
							売れ筋商品を取扱う	29.9 %
第3位	品揃えを改善する	24.4 %	宣伝・広報を強化する	24.1 %	新しい事業を始める	20.0 %	宣伝・広報を強化する	19.5 %
第4位	新しい事業を始める	14.1 %	売れ筋商品を取扱う	19.5 %	宣伝・広報を強化する	18.8 %	仕入先を開拓・選別する	16.9 %
第5位	宣伝・広報を強化する	12.8 %	新しい事業を始める	16.1 %	仕入先を開拓・選別する	16.3 %	人材を確保する	15.6 %

## 業種別動向

### (1) 家具、家電

業況（前期 $\Delta 63$ →今期 $\Delta 37$ ）は水面下ながら非常に大きく改善した。売上額（ $\Delta 35$ → $\Delta 28$ ）と収益（ $\Delta 44$ → $\Delta 28$ ）は、ともに減少・減益幅がかなり縮小した。販売価格（ $\Delta 14$ → $\Delta 39$ ）は下降傾向を極端に強め、仕入価格（ $46$ → $\Delta 2$ ）は下降に転じ良好感が出た。在庫（ $14$ → $31$ ）は過剰感が大きく強まり、資金繰り（ $\Delta 41$ → $\Delta 23$ ）は窮屈感が大幅に緩和した。借入難易度（ $\Delta 8$ → $0$ ）は厳しさがかなり和らぎ、借入をした企業（ $21\%$ → $36\%$ ）は大きく増加した。

### (2) 飲食店

業況（ $\Delta 33$ → $\Delta 59$ ）は悪化傾向が極端に強まった。売上額（ $4$ → $\Delta 70$ ）と収益（ $\Delta 28$ → $\Delta 92$ ）はともに水面下に非常に大きく落ち込んだ。販売価格（ $\Delta 24$ → $\Delta 36$ ）はさらに大きく下降を強め、仕入価格（ $64$ → $26$ ）は上昇が極端に弱まった。在庫（ $1$ → $19$ ）は過剰感がかなり強まり、資金繰り（ $\Delta 23$ → $\Delta 54$ ）は苦しさが特に大きく強まった。借入難易度（ $11$ → $\Delta 13$ ）は厳しい状況に転じ、借入をした企業（ $33\%$ → $0\%$ ）は極端に減少した。

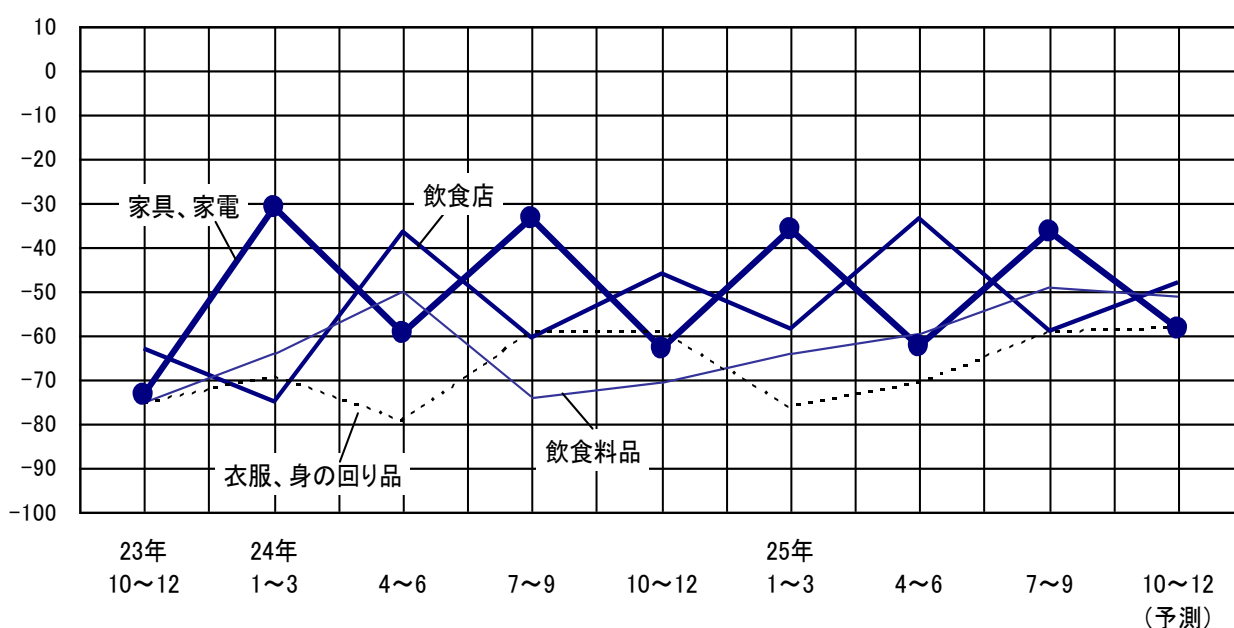
### (3) 飲食料品

業況（ $\Delta 60$ → $\Delta 49$ ）は水面下ながらかなり改善した。売上額（ $\Delta 40$ → $\Delta 65$ ）は減少を極端に強め、収益（ $\Delta 64$ → $\Delta 67$ ）は、減少幅がわずかに拡大した。仕入価格（ $15$ → $39$ ）は上昇が非常に大きく強まり、販売価格（ $\Delta 28$ → $9$ ）は好転した。在庫（ $16$ → $5$ ）は過剰感が大幅に緩和し、資金繰り（ $\Delta 17$ → $\Delta 55$ ）は厳しさが特に大きく強まった。借入難易度（ $7$ → $\Delta 24$ ）は苦しさを極端に強め、借入をした企業（ $20\%$ → $18\%$ ）は幾分減少した。

### (4) 衣服、身の回り品

業況（ $\Delta 71$ → $\Delta 60$ ）は悪化幅がかなり縮小した。売上額（ $\Delta 53$ → $\Delta 53$ ）は前期同様の水準で、収益（ $\Delta 42$ → $\Delta 63$ ）は極端に低迷した。仕入価格（ $\Delta 22$ → $27$ ）は極端に厳しい状況に転じ、販売価格（ $\Delta 16$ → $\Delta 32$ ）は下降を大きく強めた。在庫（ $26$ → $9$ ）は過剰感がかなり緩和し、資金繰り（ $\Delta 58$ → $\Delta 56$ ）は厳しさがわずかに和らいだ。借入難易度（ $\Delta 17$ → $\Delta 13$ ）は幾分改善し、借入をした企業（ $15\%$ → $33\%$ ）は大きく増加した。

業種中分類別の業況の動き（実績）と来期の予測



## コメント《小売業》

### ＜家具、家電＞

1. 経済状況が改善していると実感できる。
2. 夏の天候には恵まれ、景気としては決して良くない街中の雰囲気の中でも、エアコンの売れ行きが伸びた。ただ、台数は伸びたが単価が下がってしまい、全体としての利益が思ったほど伸びなかった。家電業界は、地デジ化により3年先食いをしてしまったと言われており、テレビを筆頭に製品の売れ行きが悪化していた。夏に多少風向きが変わって来たかと思われたが、9月に入ってまた一変してしまった。今まで以上の冷え込みを感じている。
3. 問屋のモラルが低下。「売れる先はどこでも」という感じ。
4. そろそろ廃業も考える。
5. アベノミクスと言っていますが我々零細企業は何も変わらず、相変わらず仕事量の減少に苦労しています。来年は消費税の増税もあり、頭をかかえます。大企業の輸出会社のみが恩恵にあずかっています。政府は設備投資を促していますが、国内は人口の低下もあり、フル生産をしている大手企業があるのか不思議に思います。国内の仕事の量を増大させる事が、一番大事に思います（大手は海外に設備投資のみ）。
6. アベノミクスの影響、いまだ無し。消費税アップでどうなるか？
7. 2020年までは上昇、その後の問題です。今から7年後の対策を！
8. 小売業も行っているが、ここ数年電気工事業が拡大。材料や商品の仕入価格は高騰の一途。小売業のみでの経営は大変難しいものとなっています。

### ＜飲食店＞

1. 3.11 震災以来、人々の生活習慣が変化し、特に家飲み客の増加や、この夏の異常天候により利用客の減少。更には、地域の会社の移転や撤退によるリピーター減少等々の減少傾向が続き、上向きまではなかなか先が長いようです。
2. 天気晴れなれど、さざ波あり。不安定ながら堅調。
3. 大変厳しい状況が続いている。

### ＜飲食物品＞

1. 価格競争による売上の減少に歯止めがかからない（顧客の低価格店への移動）。

2. 同業店或は大型店の廉価が非常に厳しい圧力となっており、個人店の対抗手段は中々ありません。店舗スペースの関係で商品構成に限度があり、非常に苦戦を強いられています。
3. 当社は三陸（被災地）の商品を扱っており、やや特殊です。
4. コンビニエンスストアを数店舗経営しておりますが、各チェーンとも出店速度を増しており、いつ何時競合の出店があるかわかりませんので、安心してはいられません。
5. 来年からの消費税は、おそらく転嫁出来ず、吸収せざるを得ない。
6. 報道されているような景気の良さは感じられない。個人商店が並ぶ商店街より、1か所で全て揃うスーパーにお客様が行ってしまうため、売上は伸びない。
7. 限られた商圈であるため収益の変化はなし。製造業を中心に景気は回復の兆しをみせてはいるが、スーパー業界に恩恵がもたらされるまでには時間を要する。ただし、長期的な不景気を経験した世代においては、消費者心理の改善にはさらなる時間を要すると思われる。大型店との価格、品揃えの競争は小型店においては意味をなさず、新たな戦略を組み立て、設備や人材に投資し、差別化を図る事が重要であると考えている。
8. 客数の減少と売上の低下に苦しんでいる。資金繰りも悪化。消費税アップで更に悪くならなければよいと案じている。
9. 客単価が下がり、客数は増えても収益増につながらず。また、仕入価格じわじわ上がって収益を少なくしている。有能な人材がなかなか入らない。
10. 消費税分を除き販売しておりますが、税務署からは何年も苦言をいただいております。8%では存続不可能と考えています。

### ＜衣服、身の回り品＞

1. 景気がどんどん悪くなる感じ。
2. 現在、都心でメンズのカジュアルショップを2店舗展開していますが、首都圏近郊にアウトレットモールやショッピングモールが出店した事もあり、客数も年々減少している状況です。また、ネット通販のマーケットが拡大したことも要因だと思います。後継者もおらず、来年3月に廃業する事に決めた所在です。
3. 売上単価は上がっているが、客数の減少が続

く。デベロッパーとの契約更新で苦労。

4. オーダーメイド紳士服の製造販売を 50 年ほどしておりますが、7～9月のクールビズ奨励で売上が減少した。10 月に入って注文いただけるのですが製造が間に合わず（1 年間平均して注文取らないと、技術者の能力の限界があり、結局売上増加がなかなか出来ない）、1 年間の経費を9か月でまかなう事が大変むずかしい。7～9月の閑散期対策が一番難しいが、取り組まなければならない。
5. 寝具の重要性が高まる昨今。日本の眠りという文化を伝承しつつ、お客様の笑顔のため、原点に帰り抜本的に改善点と向き合っています。楽しい商売、笑売に全力投球です。

#### <ほか小売業>

1. 普通。
2. 売上が減少した大きい問題として、オートバイの有料駐車を作らず、いきなりオートバイの駐車禁止を始めたため、売上の減少、利益の減少、社員の減少、全部、駐車禁止が始まりです。全国に早く二輪車の駐車場を作してほしい。
3. 同業他社、仕入先の情報はかなり悪化している様子。工夫して上向き傾向を目指したい。
4. 売上の停滞・減少に加え、仕入量減少により数年前より掛率が上がり、販売先からの値下げ要請、仕入値より安いネット販売等々、年々小売商売が難しくなりました。親子孫3代続きましたが、4代目は無理のようです。
5. 当社の業界はメーカー4社のマーケットですが、価格はどうしても売ればメーカーはもうかるので何の施策もなく、小売の我々は厳しいノルマに追われ、達成しなければ取引を停止するという状況で、全販売店は損しても売る状況なので利益も出ない。メーカーは直営店をつくり、マージンを多く出して競争力を増強し、弱小販売店は成立しないようにしてしまっています。
6. 売上の停滞・減少の折、税務署や各自治体の税金督促の強化！！払いたくても払えないのが現状です。すぐ差押えしますと脅し文句が入っている。我々も精一杯がんばっている。もう少し零細企業的心情を察してほしい。景気が回復すれば一日も早く払いたい。
7. 取引先顧客の高齢化や減少。売れ筋商品の大きな変化。
8. 売上の減少、代金回収の悪化。特に個人店の売上減少の為、収益の大きな減少。

# 日銀短観

[調査対象企業数]

(2013年9月調査)

	製造業	非製造業	合計	回答率
全国企業	4,232社	6,316社	10,548社	99.3%
うち大企業	1,152社	1,138社	2,290社	99.4%
中堅企業	1,132社	1,750社	2,882社	99.2%
中小企業	1,948社	3,428社	5,376社	99.4%
金融機関	—	—	194社	97.9%

(参考)事業計画の前提となっている想定為替レート(大企業・製造業) (円/ドル)

	2012年度			2013年度		
	上期	下期	下期	上期	下期	下期
2013年6月調査	82.21	79.25	85.11	91.20	91.25	91.16
2013年9月調査	—	—	—	94.45	94.77	94.14

[売上高・収益計画]

(前年度比・%)

		2012年度		2013年度	
		修正率	修正率	(計画)	修正率
大企業	製造業	-0.4	—	5.0	0.9
	国内	-0.5	—	4.4	1.0
	輸出	-0.3	—	6.6	0.4
	非製造業	0.5	—	3.2	0.6
	全産業	0.1	—	3.9	0.7
中堅企業	製造業	-1.9	—	2.1	0.7
	非製造業	2.4	—	2.3	0.5
	全産業	1.2	—	2.3	0.5
中小企業	製造業	-1.5	—	1.5	0.8
	非製造業	2.1	—	0.9	0.7
	全産業	1.3	—	1.0	0.7
全規模合計	製造業	-0.8	—	4.0	0.8
	非製造業	1.3	—	2.3	0.6
	全産業	0.6	—	2.9	0.7

(注)修正率・幅は、前回調査との対比

[業況判断]

(「良い」-「悪い」・%ポイント)

	2013年6月調査		2013年9月調査			
	最近	先行き	最近	変化幅	先行き	変化幅
<b>大企業</b>						
製造業	4	10	12	8	11	-1
非製造業	12	12	14	2	14	0
全産業	8	11	13	5	13	0
<b>中堅企業</b>						
製造業	-4	-3	0	4	2	2
非製造業	7	7	8	1	7	-1
全産業	2	3	5	3	5	0
<b>中小企業</b>						
製造業	-14	-7	-9	5	-5	4
非製造業	-4	-4	-1	3	-2	-1
全産業	-8	-5	-4	4	-3	1
<b>全規模合計</b>						
製造業	-6	-2	-2	4	1	3
非製造業	1	2	5	4	3	-2
全産業	-2	0	2	4	3	1

[需給・在庫・価格判断]

(%ポイント)

		2013年6月調査		2013年9月調査			
		最近	先行き	最近	変化幅	先行き	変化幅
国内での製商品・サービス需給判断 (「需要超過」-「供給超過」)	製造業	-32	-28	-27	5	-25	2
	うち素材業種	-36	-32	-32	4	-29	3
	加工業種	-29	-26	-25	4	-23	2
	非製造業	-27	-25	-23	4	-23	0
海外での製商品需給判断 (「需要超過」-「供給超過」)	製造業	-21	-17	-18	3	-18	0
	うち素材業種	-26	-23	-23	3	-23	0
	加工業種	-17	-14	-15	2	-14	1
製商品在庫水準判断 (「過大」-「不足」)	製造業	16	—	14	-2	—	—
	うち素材業種	19	—	18	-1	—	—
	加工業種	15	—	13	-2	—	—
製商品流通在庫水準判断 (「過大」-「不足」)	製造業	21	—	19	-2	—	—
	うち素材業種	26	—	23	-3	—	—
	加工業種	18	—	16	-2	—	—
販売価格判断 (「上昇」-「下落」)	製造業	-12	-8	-10	2	-6	4
	うち素材業種	-4	5	-3	1	4	7
	加工業種	-18	-15	-15	3	-12	3
	非製造業	-13	-7	-7	6	-4	3
仕入価格判断 (「上昇」-「下落」)	製造業	35	46	36	1	45	9
	うち素材業種	42	52	43	1	50	7
	加工業種	30	42	32	2	42	10
	非製造業	22	32	28	6	34	6

## 東京都と大田区の企業倒産動向 (平成 25 年 9 月)

### 1. 東京都の倒産概況

(単位:件・億円)

	平成24年9月	平成25年8月	平成25年9月	前月比	前年同月比
	件数	185	193		
金額	433	390	513	123	80

### 2. 原因別倒産動向

(単位:件・億円)

放漫経営	過小資本	他社倒産の余波	既往のしわよせ	販売不振
4	25	1	5	11
18	20	296	119	165
0	0	0	0	3
0	0	0	0	2

### 3. 業種別・規模別倒産動向

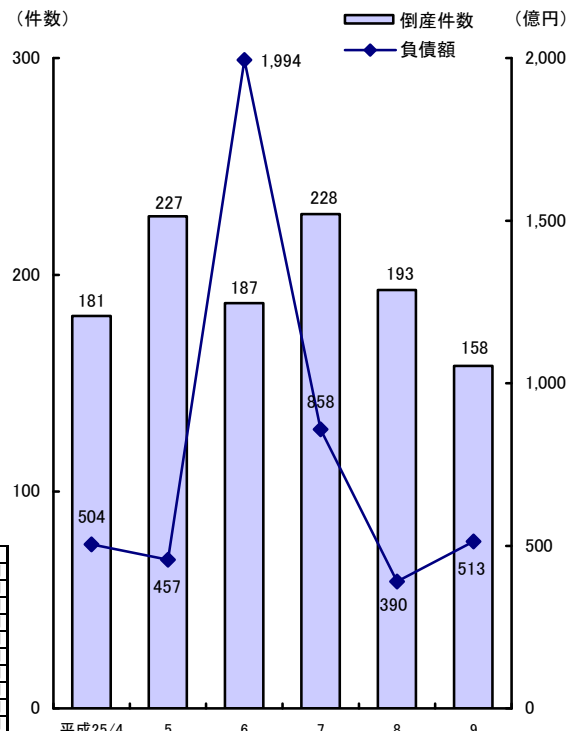
(単位:件・億円)

	件数			金額		
	前年同月	前月	当月	前年同月	前月	当月
製造業	25	21	27	43	23	131
卸売業	38	34	26	88	29	59
小売業	12	28	18	16	176	19
サービス業	42	32	25	135	20	24
建設業	31	29	19	38	40	46
不動産業	6	10	13	27	62	21
情報通信業・運輸業	20	24	20	31	30	21
宿泊業・飲食サービス業	7	10	3	2	6	5
その他	4	5	7	50	1	183
合計	185	193	158	433	390	513

### 4. 大田区内の平成25年9月の倒産動向

業種	件数	負債総額
製造業	1件	30百万円
卸売業	0件	0百万円
小売業	0件	0百万円
サービス業	0件	0百万円
建設業	1件	80百万円
不動産業	0件	0百万円
情報通信業・運輸業	0件	0百万円
宿泊業・飲食サービス業	0件	0百万円
その他	0件	0百万円
合計	2件	110百万円

(株)東京商工リサーチ調べ

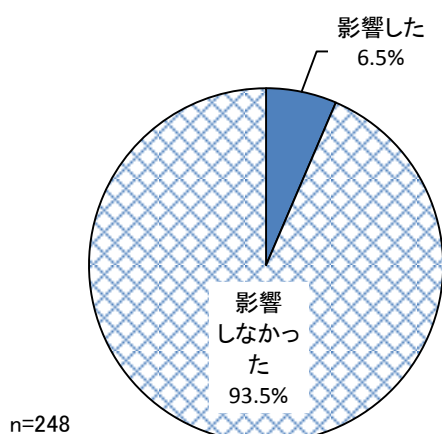




## 特別調査「中小企業における資金調達について」

- ① 金融円滑化法終了による影響の有無は、「影響しなかった」が9割強。
- ② 金融円滑化法終了による具体的な影響は、「新規融資の調達難」が最多。
- ③ ここ半年（平成25年4～9月）の間の資金調達を行った企業は4割弱で、使用目的は「運転資金（既存融資の借換資金）」が5割強で最多。
- ④ 資金の調達状況は「必要額を調達できた」企業が8割弱で、調達方法は「民間金融機関の融資（信用保証協会の保証有）」が5割弱で最多。
- ⑤ 今後、半年（平成25年10月～26年3月）の間の資金調達を行う予定の企業は3割弱で、使用目的は「運転資金（既存融資の借換資金）」が約5割で最多。「設備投資（改装・修繕）」が3番目で約2割。

### 問1. 金融円滑化法終了による影響の有無



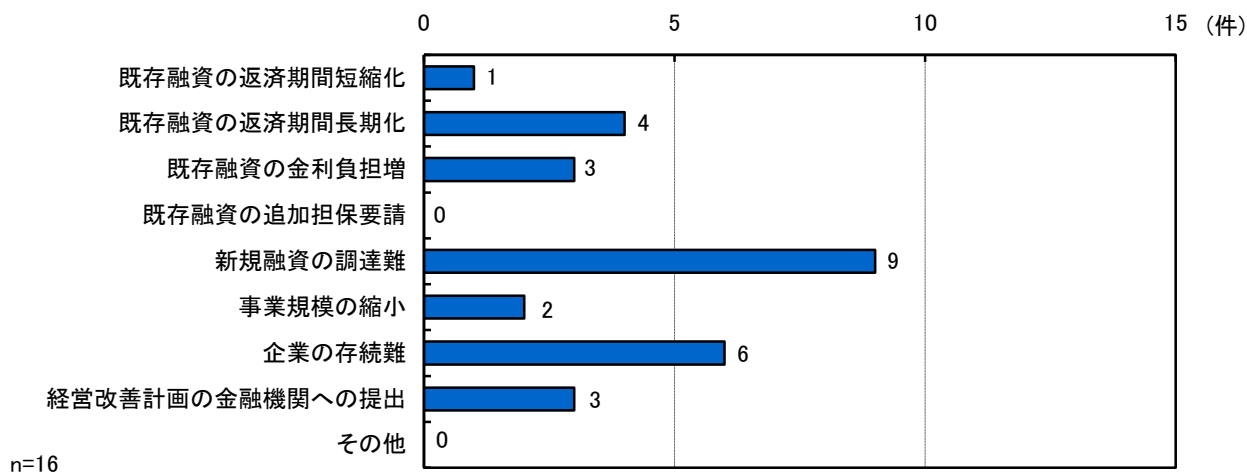
金融円滑化法終了による影響の有無は、「影響しなかった」が93.5%で大勢を占めた。「影響した」は6.5%と、1割を下回った。

業種別にみると、「影響しなかった」は製造業で94.2%、小売業で92.0%と、ともに9割を上回り、業種による違いは特にみられなかった。

(単位: %)

業種	影響した	影響しなかった
全体	6.5	93.5
製造業	5.8	94.2
小売業	8.0	92.0

### 問2. 金融円滑化法終了による具体的な影響（複数回答可）



問1で「影響した」と回答した企業16社に金融円滑化法終了による具体的な影響をたずねたところ、「新規融資の調達難」が9件で最も多かった。次いで、「企業の存続難」が6件、「既存融資の返済期間長期化」が4件と続いた。

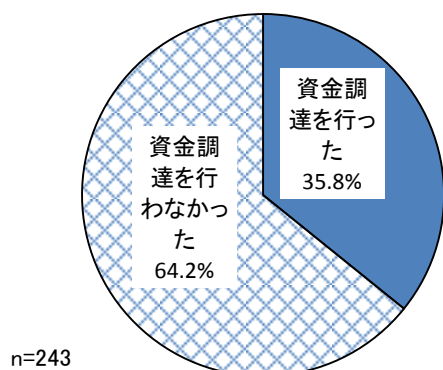
業種別にみると、製造業では「新規融資の調達難」が6件で最も多く、次いで、「既存融資の返済期間長期化」が4件と続いた。一方、小売業では「企業の存続難」が5件で最も多く、次いで、「新規融資の調達難」が3件と続いた。両業種で「新規融資の調達難」を挙げた企業が多い傾向にあった。また、小売業では「企業の存続難」を挙げた企業が最も多く、金融円滑化法終了による具体的な影響を受けた場合、企業経営そのものにダメージを受ける可能性が、製造業に比べて高いことが推察される結果となった。

(単位:件)

業種	既存融資の返済期間短縮化	既存融資の返済期間長期化	既存融資の金利負担増	既存融資の追加担保要請	新規融資の調達難	事業規模の縮小	企業の存続難	経営改善計画の金融機関への提出	その他
全体	1	4	3	0	9	2	6	3	0
製造業	1	4	3	0	6	2	1	2	0
小売業	0	0	0	0	3	0	5	1	0

### 問3. ここ半年（平成25年4～9月）の間に調達した資金の使用目的（複数回答可）

#### 【ここ半年の間の資金調査の有無】



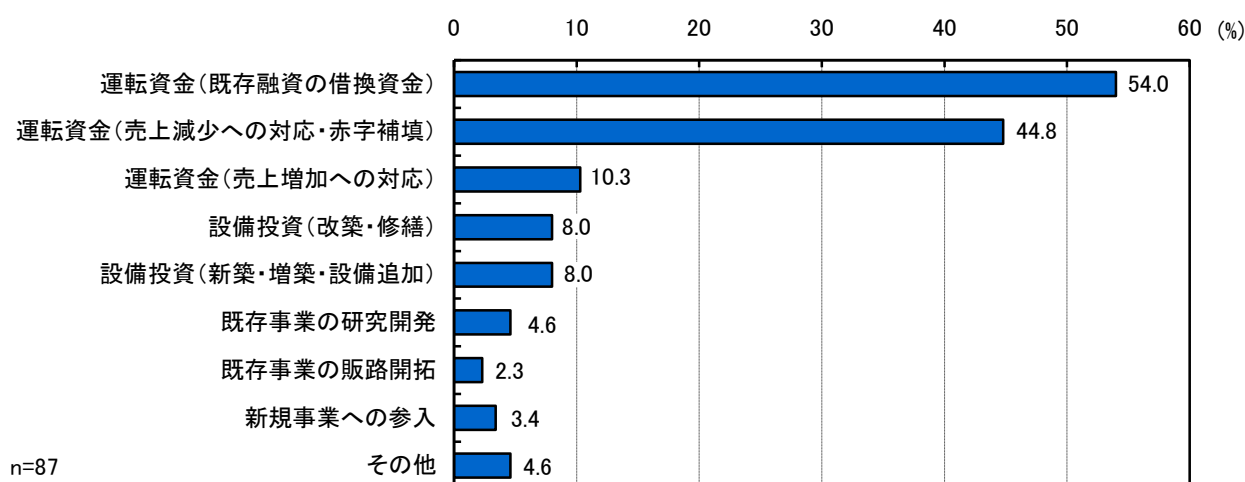
ここ半年（平成25年4～9月）の間に資金調達を行ったかについては、「資金調達を行わなかった」が64.2%で6割を上回った。「資金調達を行った」は35.8%と、およそ3社に1社の割合となった。

業種別にみると、「資金調達を行った」は製造業で40.5%、小売業で25.3%と、製造業のほうが資金調達を行った企業の割合が高かった。

(単位:%)

業種	資金調達を行った	資金調達を行わなかった
全体	35.8	64.2
製造業	40.5	59.5
小売業	25.3	74.7

#### 【ここ半年の間に調達した資金の使用目的】



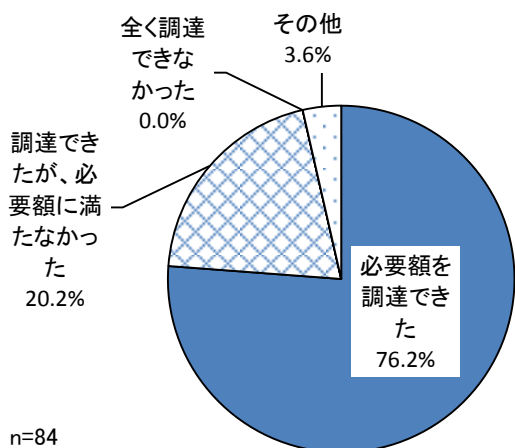
ここ半年の間に資金調達を行った企業の、資金の使用用途は、「運転資金（既存融資の借換資金）」が54.0%で最も多かった。次いで「運転資金（売上減少への対応・赤字補填）」44.8%、「運転資金（売上増加への対応）」10.3%と続いた。

業種別に見ると、「運転資金（既存融資の借換資金）」が両業種とも最も多く、製造業で54.4%、小売業で52.6%と、ともに5割を上回った。「運転資金（売上減少への対応・赤字補填）」は、製造業で47.1%、小売業で38.6%と、製造業でより高い割合を占めた。なお、「新規事業への参入」は、製造業で1.5%に対し小売業で10.5%と、小売業でより高い割合を占めた。

(単位:%)

業種	運転資金(既存融資の借換資金)	運転資金(売上減少への対応・赤字補填)	運転資金(売上増加への対応)	設備投資(改築・修繕)	設備投資(新築・増築・設備追加)	既存事業の研究開発	既存事業の販路開拓	新規事業への参入	その他
全体	54.0	44.8	10.3	8.0	8.0	4.6	2.3	3.4	4.6
製造業	54.4	47.1	10.3	8.8	8.8	4.4	1.5	1.5	5.9
小売業	52.6	38.6	10.5	5.3	5.3	5.3	5.3	10.5	0.0

#### 問4①. 資金の調達状況



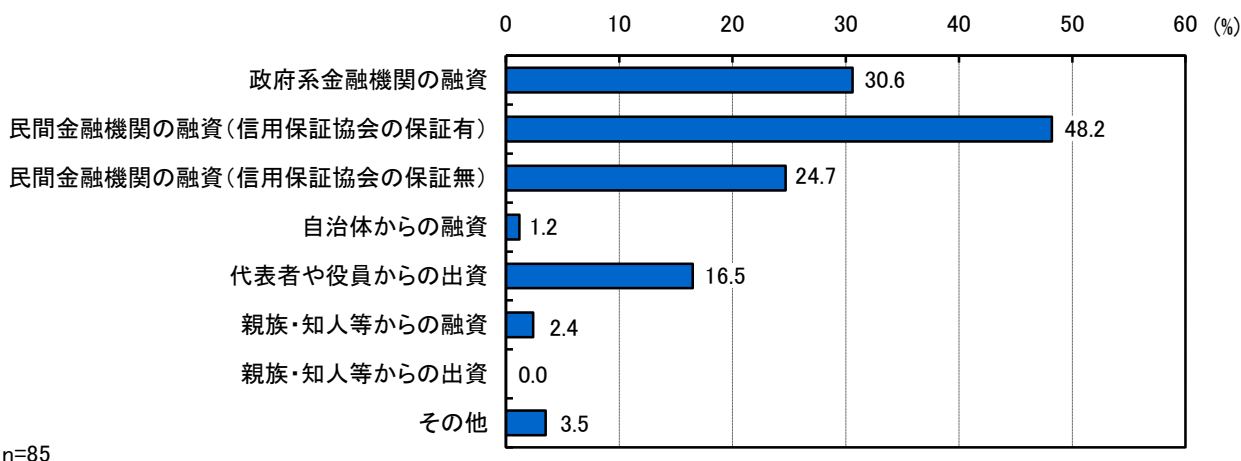
問3で「資金調達を行った」と回答した企業に、資金の調達状況をたずねたところ、「必要額を調達できた」が76.2%で最も多かった。「調達できたが、必要額に満たなかった」は20.2%で約2割を占めた。なお、「全く調達できなかった」は0件であった。

業種別に見ると、「必要額を調達できた」は、製造業で80.0%、小売業で63.2%と、製造業のほうが必要額を調達できた企業の割合が多かった。「調達できたが、必要額に満たなかった」は、製造業で16.9%に対し、小売業で31.6%と3割を上回り、小売業のほうが必要とする額を十分調達できなかった企業の割合が高く、より資金調達が難しい状況にあることがうかがえる結果となった。

(単位: %)

業種	必要額を調達できた	調達できたが、必要額に満たなかった	全く調達できなかった	その他
全体	76.2	20.2	0.0	3.6
製造業	80.0	16.9	0.0	3.1
小売業	63.2	31.6	0.0	5.3

#### 問4②. 資金の調達方法 (複数回答可)



同じく問3で「資金調達を行った」と回答した企業に、資金の調達方法をたずねたところ、「民間金融機関の融資(信用保証協会の保証有)」が48.2%で最も多かった。次いで、「政府系金融機関の融資」30.6%、「民間金融機関の融資(信用保証協会の保証無)」24.7%と続いた。

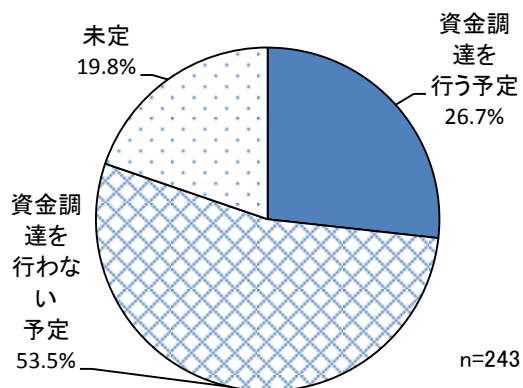
業種別にみると、製造業では「民間金融機関の融資(信用保証協会の保証有)」が47.8%で最も多く、次いで、「民間金融機関の融資(信用保証協会の保証無)」29.9%、「政府系金融機関の融資」28.4%と続いた。一方、小売業では「民間金融機関の融資(信用保証協会の保証有)」が50.0%で最も多く、次いで、「政府系金融機関の融資」38.9%、「代表者や役員からの出資」22.2%と続いた。「民間金融機関の融資(信用保証協会の保証有)」は、両業種で用いられる割合が高かった。一方、小売業では、「代表者や役員からの出資」が2割を上回り、経営陣の自己資金を用いた調達が製造業に比べて多い傾向にあった。

(単位: %)

業種	政府系金融機関の融資	民間金融機関の融資(信用保証協会の保証有)	民間金融機関の融資(信用保証協会の保証無)	自治体からの融資	代表者や役員からの出資	親族・知人等からの融資	親族・知人等からの出資	その他
全体	30.6	48.2	24.7	1.2	16.5	2.4	0.0	3.5
製造業	28.4	47.8	29.9	1.5	14.9	1.5	0.0	4.5
小売業	38.9	50.0	5.6	0.0	22.2	5.6	0.0	0.0

問5. 今後半年（平成25年10月～26年3月）の間に調達予定の資金の使用目的（複数回答可）

【今後、半年の間の資金調達予定の有無】



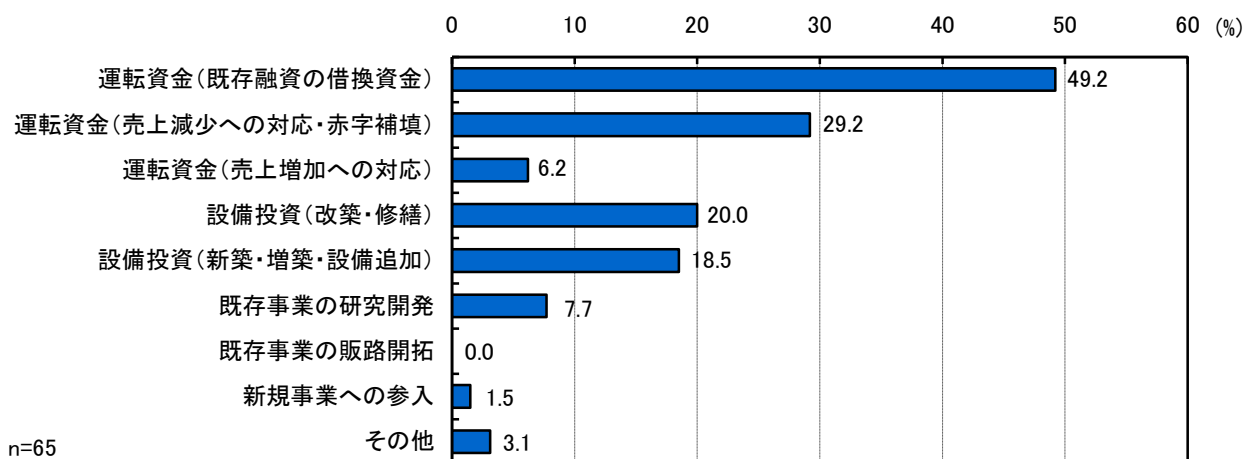
今後半年（平成25年10月～26年3月）の間に資金調達を行う予定かについては、「資金調達を行わない予定」が53.5%で最も多かった。次いで、「資金調達を行う予定」26.7%、「未定」19.8%と続いた。

業種別にみると、「資金調達を行う予定」は製造業で29.6%、小売業で20.3%と、製造業のほうが資金調達を行う予定の企業の割合が高かった。

(単位: %)

業種	資金調達を行う予定	資金調達を行わない予定	未定
全体	26.7	53.5	19.8
製造業	29.6	52.1	18.3
小売業	20.3	56.8	23.0

【今後、半年）の間に調達予定の資金の使用目的】



今後、半年の間に資金調達を行う予定の企業の、資金の使用用途は、「運転資金(既存融資の借換資金)」が49.2%で最も多く、次いで「運転資金(売上減少への対応・赤字補填)」29.2%、「設備投資(改築・修繕)」20.0%と続いた。

業種別に見ると、「運転資金(既存融資の借換資金)」が両業種とも最も多く、製造業で50.0%、小売業で46.7%を占めた。「運転資金(売上減少への対応・赤字補填)」は、製造業で28.0%、小売業で33.3%と、小売業の方がやや高い割合を占めた。なお、製造業では「設備投資(新築・増築・設備追加)」が20.0%で第3位、小売業では「設備投資(改築・修繕)」が26.7%で第3位となっており、ともに設備投資に関する項目が挙げられた。

(単位: %)

業種	運転資金(既存融資の借換資金)	運転資金(売上減少への対応・赤字補填)	運転資金(売上増加への対応)	設備投資(改築・修繕)	設備投資(新築・増築・設備追加)	既存事業の研究開発	既存事業の販路開拓	新規事業への参入	その他
全体	49.2	29.2	6.2	20.0	18.5	7.7	0.0	1.5	3.1
製造業	50.0	28.0	6.0	18.0	20.0	10.0	0.0	0.0	4.0
小売業	46.7	33.3	6.7	26.7	13.3	0.0	0.0	6.7	0.0

コメント(自由記述)

以下、寄せられたコメントを一部抜粋して掲載する。

- 融資をしてもらえても、返すあてがなく受けられない。
- 運転資金を借ると返済に苦しむので、頑張っています。
- 資金調達を行わないのではなく、年齢的に行えないと思います。

## 製造業

## 大田区 中小企業景況調査 比較表

平成25年7月～9月期

## [今期の景況]

		全体	輸送用 機械器具	電気機械器具	一般機械 器具、金型	金属製品、 建設用金属、 金属プレス	精密機械器具
業況		-39	-35	-21	-43	-43	-51
売上額		-27	-33	-12	-29	-25	-28
受注残		-29	-30	-24	-24	-22	-36
収益		-36	-45	-21	-34	-37	-44
販売価格		-21	-19	-23	-27	-23	-20
原材料価格		30	16	37	30	16	33
原材料在庫		7	6	5	11	15	1
資金繰り		-33	-24	-33	-38	-42	-20
雇用	残業時間	-5	0	-5	6	-7	-15
	人手	-3	-4	5	-14	10	-15
同期比	売上額	-23	-26	-8	-14	-45	-26
	収益	-34	-41	-16	-19	-61	-33
経営上の 問題点	① 売上の停滞・減少	66	63	60	64	77	63
	② 利幅の縮小	30	33	14	39	40	30
	③ 同業者間の競争の激化	17	19	24	14	13	19
	④ 原材料高	15	19	19	14	7	22
	⑤ 工場・機械の狭小・老朽化	14	7	11	19	13	19
重点 経営 施策	① 販路を広げる	57	52	60	62	50	56
	② 経費を節減する	47	56	46	50	46	41
	③ 新製品・技術を開発する	29	30	22	29	18	48
	④ 人材を確保する	21	11	22	18	21	26
	⑤ 情報力を強化する	20	30	16	21	25	22
借入難易度		-3	4	-8	-14	3	-7

## [来期の景況見通し]

業況		-43	-43	-33	-37	-65	-53
売上額		-32	-44	-27	-24	-53	-22
受注残		-30	-42	-23	-18	-38	-32
収益		-39	-44	-39	-27	-53	-33
販売価格		-23	-25	-32	-22	-22	-21
原材料価格		32	20	36	35	30	23
原材料在庫		5	-1	3	6	18	1
資金繰り		-36	-25	-40	-32	-52	-27
雇用	残業時間	-14	-22	-5	-9	-31	-15
	人手	-2	-11	5	-11	10	-11

\* 単純D・Iを表示している項目。雇用面、前年同期比、借入難易度

\* 企業割合(%)を表示している項目。経営上の問題点、重点経営施策

## [今期の景況]

		全体	家具、家電	飲食店	飲食料品	衣服、身の回り品
業況		-51	-37	-59	-49	-60
売上額		-53	-28	-70	-65	-53
収益		-55	-28	-92	-67	-63
販売価格		-24	-39	-36	9	-32
仕入価格		16	-2	26	39	27
在庫		10	31	19	5	9
資金繰り		-44	-23	-54	-55	-56
雇用	残業時間	-13	7	-13	-13	-36
	人手	-18	-14	-25	-19	-9
同期比	売上額	-41	-7	-38	-53	-55
	収益	-48	-21	-50	-71	-70
	販売価格	-13	0	-25	-6	-30
経営上の問題点	① 売上の停滞・減少	61	57	63	59	73
	② 取引先の減少	24	14	13	24	18
	③ 利幅の縮小	23	21	25	24	9
	④ 同業者間の競争の激化	22	36	0	29	9
	⑤ 商店街の集客力の低下	20	14	13	24	55
重点経営施策	① 経費を節減する	57	46	50	47	64
	② 品揃えを改善する	30	31	25	29	55
	③ 売れ筋商品を取扱う	30	23	38	35	46
	④ 宣伝・広報を強化する	20	8	25	29	18
	⑤ 仕入先を開拓・選別する	17	15	38	29	0
借入難易度		-15	0	-13	-24	-13

## [来期の景況見通し]

業況		-55	-58	-48	-51	-58
売上額		-48	-48	-34	-46	-33
収益		-52	-49	-41	-48	-33
販売価格		-19	-36	-20	29	-33
仕入価格		21	16	45	45	15
在庫		2	12	7	12	7
資金繰り		-48	-39	-48	-60	-47
雇用	残業時間	-16	-29	13	0	-18
	人手	-15	-7	-38	-25	0

\* 単純D・Iを表示している項目。雇用面、前年同期比、借入難易度

\* 企業割合(%)を表示している項目。経営上の問題点、重点経営施策

製造業  
地域名:大田区  
中分類:業種合計

中小企業景況調査 転記表 NO. 1

平成25年7~9月期 1/2

注:各項目の右側は、前期調査における予想(計画)値です。

項目	調査期		23年		24年		24年		24年		25年		25年		25年		対 前期比	25年 10~12月期	
	10~12月期	1~3月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期					
業況	良い	22.5	17.8	23.9	15.6	16.6	20.9	13.2	13.7	14.0	12.9	12.0	7.6	14.9	11.4	20.3	17.6		17.7
	普通	28.8	23.3	28.8	28.8	25.8	27.0	27.0	27.3	20.3	21.1	26.3	24.4	25.5	30.7	23.7	29.6		29.7
	悪い	48.8	58.9	47.2	55.6	57.7	52.1	59.8	59.0	65.7	66.1	61.7	68.0	59.6	57.8	55.9	52.8		52.6
	D-I	-26.3	-41.1	-23.3	-40.0	-41.1	-31.3	-46.6	-45.3	-51.7	-53.2	-49.7	-60.5	-44.7	-46.4	-35.6	-35.2		-34.9
	修正値	-24.5	-45.9	-25.8	-29.8	-35.5	-22.8	-44.2	-43.9	-48.6	-55.8	-52.4	-52.9	-44.1	-47.8	-38.6	-42.8	5.0	-42.9
	傾向値	-31.9		-30.5		-31.1		-33.0		-37.5		-44.0		-47.7		-46.8			
売上額	増加	28.9	19.0	26.8	19.5	20.9	17.7	15.5	16.1	19.8	15.5	16.2	11.6	19.8	21.1	26.8	22.5		19.9
	変らず	30.8	27.0	29.3	24.5	22.7	34.8	29.3	29.2	18.0	26.4	23.4	25.6	26.5	28.9	26.8	35.6		34.7
	減少	40.3	54.0	43.9	56.0	56.4	47.6	55.2	54.7	62.2	58.0	60.5	62.8	53.7	50.0	46.4	41.9		45.5
	D-I	-11.3	-35.0	-17.1	-36.5	-35.6	-29.9	-39.7	-38.5	-42.4	-42.5	-44.3	-51.2	-34.0	-28.9	-19.6	-19.4		-25.6
	修正値	-11.9	-40.3	-15.1	-21.6	-29.7	-19.2	-41.4	-43.7	-40.4	-46.4	-44.3	-40.5	-32.6	-27.6	-27.0	-32.4	6.0	-31.9
	傾向値	-19.2		-18.6		-20.2		-23.5		-29.8		-37.1		-40.3		-37.6			
受注残	増加	20.4	18.6	23.6	15.9	12.4	18.6	7.6	10.6	9.4	14.0	9.8	7.6	13.0	12.9	16.6	16.4		15.9
	変らず	36.3	32.9	34.2	34.4	35.4	37.9	42.4	39.4	28.8	32.7	35.4	35.3	39.1	42.9	46.9	45.3		46.6
	減少	43.3	48.4	42.2	49.7	52.2	43.5	50.0	50.0	61.8	53.2	54.9	57.1	47.8	44.2	36.6	38.4		37.5
	D-I	-22.9	-29.8	-18.6	-33.8	-39.8	-24.8	-42.4	-39.4	-52.4	-39.2	-45.1	-49.4	-34.8	-31.3	-20.0	-22.0		-21.6
	修正値	-21.9	-35.5	-18.5	-18.1	-31.5	-16.4	-44.6	-43.1	-49.9	-43.9	-47.2	-38.5	-33.0	-31.0	-29.2	-33.1	4.0	-30.0
	傾向値	-27.1		-25.9		-26.0		-28.8		-34.6		-41.6		-44.3		-40.9			
収益	増加	23.9	16.8	28.7	14.5	15.3	17.7	15.5	12.3	12.8	12.1	15.0	9.3	17.9	13.9	20.2	18.8		16.9
	変らず	26.4	29.8	23.8	29.6	27.0	32.3	28.2	32.5	25.6	28.7	26.9	28.5	18.5	28.3	30.3	32.5		35.0
	減少	49.7	53.4	47.6	56.0	57.7	50.0	56.3	55.2	61.6	59.2	58.1	62.2	63.6	57.8	49.4	48.8		48.0
	D-I	-25.8	-36.6	-18.9	-41.5	-42.3	-32.3	-40.8	-42.9	-48.8	-47.1	-43.1	-52.9	-45.7	-44.0	-29.2	-30.0		-31.1
	修正値	-26.6	-43.3	-17.5	-28.2	-36.2	-23.1	-43.1	-45.2	-47.7	-51.9	-44.1	-43.8	-42.7	-43.0	-36.3	-38.9	6.0	-38.8
	傾向値	-30.3		-29.6		-29.5		-31.1		-34.8		-40.7		-44.2		-43.2			
価格動向	販売価格	-23.3	-24.2	-22.6	-24.5	-27.3	-22.0	-24.4	-24.8	-28.8	-29.1	-21.8	-34.1	-21.7	-22.0	-18.0	-18.9		-20.8
	// 修正値	-20.9	-25.0	-20.7	-18.5	-25.1	-19.3	-25.6	-26.9	-26.5	-29.7	-21.4	-28.8	-21.2	-21.4	-20.6	-22.9	1.0	-22.6
	// 傾向値	-22.3		-22.6		-23.5		-24.1		-25.1		-25.7		-24.9		-23.4			
	原材料価格	20.6	22.1	30.7	16.9	9.9	28.8	11.5	10.5	6.4	10.9	30.1	8.7	31.1	37.6	35.2	33.3		32.4
	// 修正値	29.8	22.5	37.7	31.8	10.6	28.0	10.6	6.6	17.6	14.3	33.7	25.3	30.0	33.1	30.0	28.1	0.0	31.6
	// 傾向値	37.6		34.1		27.9		20.7		16.4		14.5		17.1		22.7			
在庫・資 金繰り	原材料在庫数量	13.1	8.9	13.8	11.2	15.1	9.4	20.3	7.6	14.2	21.4	18.1	10.7	13.0	13.9	6.3	7.5		4.6
	// 修正値	9.7	8.0	13.2	7.3	16.7	10.0	19.4	9.1	12.8	19.7	17.1	8.3	14.2	14.0	6.6	9.5	-8.0	4.8
	資金繰り	-33.3	-35.4	-25.3	-40.3	-30.8	-32.7	-32.2	-42.1	-41.9	-39.1	-30.7	-36.0	-36.6	-32.7	-30.7	-30.2		-33.1
	// 修正値	-33.1	-36.4	-20.1	-36.3	-31.6	-27.3	-32.3	-42.3	-39.2	-41.0	-29.9	-32.4	-38.7	-32.7	-33.1	-33.9	6.0	-35.6
前年同 期比	売上額	-12.3		-9.3		-16.3		-30.6		-41.8		-44.6		-35.2		-23.2			
	収益	-21.3		-17.3		-26.1		-33.9		-49.1		-46.7		-40.7		-34.1			
雇用	残業時間	-12.1	-21.0	-19.9	-24.8	-21.4	-23.7	-23.7	-22.0	-25.4	-20.1	-19.3	-27.2	-17.7	-15.7	-4.5	-10.3		-14.2
	人手	2.5	13.6	4.4	8.9	12.0	6.3	5.8	14.6	7.6	7.6	3.7	2.9	8.7	8.7	-3.4	3.8		-1.7
借入金	借入難易度	-11.8		-0.6		-5.8		-1.8		-1.8		-1.3		3.2		-2.8			
	借入をした(%)	36.8	19.6	24.5	18.1	23.7	16.4	34.1	21.3	37.6	18.4	32.5	25.6	31.2	23.1	32.6	23.0		18.7
	借入をしな(%)	63.2	80.4	75.5	81.9	76.3	83.6	65.9	78.7	62.4	81.6	67.5	74.4	68.8	76.9	67.4	77.0		81.3
有効回答事業所数		162		165		163		174		172		167		165		179			

注: 各項目の右側は、前期調査における予想(計画)値です。

項目	調査期		23年		24年		24年		24年		25年		25年		25年		対 前期比	25年 10~12月期	
	10~12月期	1~3月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期					
設備投資動向(%)	現在の設備	-8.6	-5.1	-5.7	-5.3	-3.1	-2.5	0.6	-3.1	-4.7	4.1	-8.6	-4.7	-1.9	-7.4	-6.3	-3.2		-4.6
	実施した	25.5	24.7	25.0	30.1	26.0	27.6	30.8	24.2	30.1	24.1	25.5	27.5	28.2	29.9	28.6	26.8		26.5
	事業用地・建物	1.3	2.7	1.9	4.1	3.9	3.3	3.6	3.9	3.7	3.1	1.9	3.9	3.2	2.6	4.0	2.0		3.5
	機械・設備の新・増設	9.4	5.5	9.0	10.3	13.6	14.5	12.4	8.5	12.9	9.3	9.3	9.8	10.3	11.0	10.9	7.8		10.0
	機械・設備の更改	8.7	11.0	11.5	16.4	11.0	13.8	11.2	12.4	12.9	11.7	8.7	13.1	10.9	10.4	10.9	11.1		9.4
	事務機器	8.7	7.5	10.9	11.6	8.4	8.6	10.7	5.2	12.3	6.8	10.6	10.5	14.1	9.7	12.0	11.1		10.0
	車両	6.7	2.7	6.4	4.8	6.5	4.6	6.5	4.6	8.6	3.1	6.8	6.5	9.6	6.5	8.6	8.5		6.5
	その他	1.3	0.7	0.0	0.7	0.6	0.0	2.4	0.7	0.0	1.2	3.7	0.7	0.0	2.6	0.6	0.0		0.6
	実施しない	74.5	75.3	75.0	69.9	74.0	72.4	69.2	75.8	69.9	75.9	74.5	72.5	71.8	70.1	71.4	73.2		73.5
	経営上の問題点(%)	売上の停滞・減少	66.9	65.4	68.3	75.6	78.5	72.7	69.4	65.7									
人手不足		8.3	6.2	5.6	3.5	8.7	7.3	8.1	10.1										
大手企業との競争の激化		3.2	1.9	3.1	1.7	1.2	0.6	0.0	0.6										
同業者間の競争の激化		20.4	20.4	22.4	13.4	19.2	21.2	22.5	17.4										
親企業による選別の強化		10.8	8.6	9.9	8.7	10.5	8.5	7.5	10.1										
輸入製品との競争の激化		5.1	5.6	9.9	5.2	9.3	9.7	4.4	7.3										
合理化の不足		5.1	6.2	8.7	11.0	4.1	6.1	3.8	7.3										
利幅の縮小		30.6	26.5	26.7	26.2	27.3	24.8	27.5	30.3										
原材料高		17.2	18.5	10.6	14.0	9.9	15.2	20.0	15.2										
販売納入先からの値下げ要請		20.4	18.5	19.3	15.7	18.6	14.5	13.1	10.7										
仕入先からの値上げ要請		7.0	8.6	3.1	4.1	3.5	7.9	5.6	5.1										
人件費の増加		5.7	6.2	5.6	6.4	5.8	9.1	7.5	9.0										
人件費以外の経費の増加		3.2	9.3	8.7	5.8	9.9	9.7	7.5	5.6										
工場・機械の狭小・老朽化		17.8	17.9	22.4	19.8	22.7	18.2	18.1	14.0										
生産能力の不足		5.7	3.7	5.0	4.1	8.1	6.7	6.9	10.7										
下請の確保難		1.3	5.6	3.7	4.7	1.7	3.6	5.0	6.7										
代金回収の悪化		1.3	0.0	0.6	0.6	0.6	0.0	0.0	1.1										
地価の高騰		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0										
天候の不順		0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	0.6										
地場産業の衰退		3.2	5.6	3.7	2.9	1.7	3.0	3.8	2.2										
大手企業・工場の縮小・撤退	11.5	8.0	8.7	9.9	11.0	9.7	10.6	7.9											
為替レートの変動	4.5	4.3	3.7	5.2	7.0	6.1	5.0	4.5											
その他	6.4	3.1	3.7	4.7	1.7	3.0	2.5	1.7											
問題なし	1.9	1.2	1.2	1.2	0.6	0.6	0.6	1.1											
重点経営施策(%)	販路を広げる	61.8	59.4	60.6	60.5	58.9	57.1	59.2	56.9										
	経費を節減する	58.0	56.9	58.8	50.3	56.5	57.1	53.5	46.6										
	情報力を強化する	22.3	20.0	23.8	17.4	17.9	19.0	22.9	20.1										
	新製品・技術を開発する	28.0	28.1	25.6	28.7	25.0	25.8	30.6	29.3										
	不採算部門を整理・縮小する	5.1	6.3	5.6	4.8	9.5	6.1	2.5	5.7										
	提携先を見つける	5.1	9.4	5.6	10.2	7.7	9.2	9.6	8.6										
	機械化を推進する	7.6	8.8	5.6	7.2	7.7	6.1	7.0	6.3										
	人材を確保する	15.9	15.0	11.9	14.4	22.6	19.6	14.0	20.7										
	パート化を図る	5.1	5.0	3.8	2.4	2.4	1.2	2.5	1.7										
	教育訓練を強化する	10.2	13.8	14.4	10.2	11.9	19.6	13.4	11.5										
	労働条件を改善する	1.9	1.3	0.6	2.4	2.4	1.2	0.6	2.3										
	工場・機械を増設・移転する	7.6	6.9	5.0	4.8	2.4	3.7	3.8	6.3										
	不動産の有効活用を図る	2.5	3.8	2.5	3.0	3.0	1.8	3.2	1.7										
	その他	3.2	0.0	0.0	0.6	1.2	0.6	2.5	1.7										
特になし	7.6	6.3	6.3	10.8	7.7	9.2	5.1	10.7											
有効回答事業所数	162	165	163	174	172	167	165	179											



小売業  
 地域名:大田区  
 中分類:業種合計

中小企業景況調査 転記表 NO. 1

平成25年7~9月期 1/2

注:各項目の右側は、前期調査における予想(計画)値です。

項目	調査期	23年		24年		24年		24年		24年		25年		25年		25年		対 前期比	25年 10~12月期
		10~12月期		1~3月期		4~6月期		7~9月期		10~12月期		1~3月期		4~6月期		7~9月期			
業況	良い	6.7	9.6	11.8	5.6	13.4	11.5	12.3	11.3	5.7	10.0	8.0	4.7	14.3	13.6	12.2	20.2		11.1
	普通	14.4	20.2	20.0	21.1	19.5	23.0	14.8	20.0	21.8	17.5	23.9	17.6	23.8	22.7	29.3	23.8		28.4
	悪い	78.9	70.2	68.2	73.3	67.1	65.5	72.8	68.8	72.4	72.5	68.2	77.6	61.9	63.6	58.5	56.0		60.5
	D-I	-72.2	-60.6	-56.5	-67.8	-53.7	-54.0	-60.5	-57.5	-66.7	-62.5	-60.2	-72.9	-47.6	-50.0	-46.3	-35.7		-49.4
	修正値	-68.7	-62.5	-54.7	-61.7	-57.2	-50.6	-59.8	-55.4	-60.7	-65.6	-60.4	-67.2	-55.6	-53.7	-51.1	-45.0	5.0	-54.7
	傾向値	-59.5		-60.2		-58.6		-59.3		-60.0		-59.8		-59.5		-57.0			
売上額	増加	15.6	19.1	16.1	6.7	19.5	17.2	12.3	11.3	19.3	21.0	17.0	10.3	21.2	20.2	8.5	22.4		17.1
	変らず	20.0	18.1	20.7	28.9	23.2	17.2	23.5	30.0	22.7	19.8	21.6	25.3	29.4	29.2	29.3	28.2		26.8
	減少	64.4	62.8	63.2	64.4	57.3	65.5	64.2	58.8	58.0	59.3	61.4	64.4	49.4	50.6	62.2	49.4		56.1
	D-I	-48.9	-43.6	-47.1	-57.8	-37.8	-48.3	-51.9	-47.5	-38.6	-38.3	-44.3	-54.0	-28.2	-30.3	-53.7	-27.1		-39.0
	修正値	-48.7	-50.4	-36.2	-43.4	-42.6	-44.9	-52.8	-48.4	-40.0	-46.9	-36.0	-39.1	-37.0	-32.9	-53.1	-36.1	-16.0	-47.7
	傾向値	-45.9		-45.6		-43.4		-44.3		-45.1		-43.5		-42.0		-41.0			
収益	増加	10.0	14.0	10.3	5.6	13.4	14.9	12.3	10.0	12.5	18.8	9.1	8.0	16.5	16.9	12.2	22.4		14.8
	変らず	21.1	21.5	23.0	25.8	24.4	19.5	22.2	28.8	28.4	21.3	33.0	29.9	25.9	34.8	22.0	24.7		25.9
	減少	68.9	64.5	66.7	68.5	62.2	65.5	65.4	61.3	59.1	60.0	58.0	62.1	57.6	48.3	65.9	52.9		59.3
	D-I	-58.9	-50.5	-56.3	-62.9	-48.8	-50.6	-53.1	-51.3	-46.6	-41.3	-48.9	-54.0	-41.2	-31.5	-53.7	-30.6		-44.4
	修正値	-60.5	-56.2	-41.6	-52.1	-53.3	-44.8	-53.5	-52.4	-50.7	-49.8	-39.9	-43.1	-48.6	-33.8	-54.9	-39.5	-6.0	-51.9
	傾向値	-51.6		-52.6		-51.4		-52.8		-52.7		-50.3		-48.4		-47.5			
価格動向	販売価格	-32.6	-33.3	-26.4	-46.1	-33.3	-21.8	-23.5	-33.8	-37.5	-28.4	-30.3	-39.1	-17.9	-28.1	-23.8	-10.7		-17.5
	// 修正値	-28.7	-34.7	-23.1	-36.1	-35.5	-24.1	-23.7	-35.0	-32.5	-29.0	-26.3	-26.0	-21.3	-30.4	-24.3	-18.8	-3.0	-18.9
	// 傾向値	-28.2		-28.9		-30.1		-30.0		-29.6		-30.7		-29.2		-27.3			
	仕入価格	0.0	4.3	4.6	-6.7	-2.5	0.0	0.0	-7.6	-2.3	2.5	15.7	-5.7	24.1	18.0	13.8	31.3		25.0
	// 修正値	2.2	0.8	8.2	0.6	-2.5	2.1	0.4	-7.9	2.5	0.2	17.9	4.8	25.9	17.5	15.9	30.1	-10.0	20.7
	// 傾向値	6.7		5.7		2.5		0.8		0.2		1.4		6.1		11.1			
在庫・資金	在庫数量	6.8	7.5	3.4	1.1	8.5	-8.0	-2.5	0.0	4.7	-6.2	10.1	-1.2	13.3	9.0	7.6	3.6		5.1
	// 修正値	2.4	3.9	5.6	-1.1	9.3	-4.7	-0.8	2.2	1.1	-7.6	10.5	-4.3	12.0	11.1	9.8	3.9	-2.0	2.4
	資金繰り	-54.7	-47.3	-41.9	-57.0	-46.9	-41.9	-57.0	-58.0	-47.7	-57.0	-48.9	-55.2	-34.1	-48.9	-45.6	-39.0		-46.8
	// 修正値	-52.2	-46.4	-39.0	-53.3	-47.9	-38.9	-56.3	-59.0	-46.0	-55.9	-47.6	-51.3	-38.0	-49.6	-44.0	-42.6	-6.0	-47.7
前年同	売上額	-50.6		-32.2		-34.6		-41.0		-45.0		-33.7		-34.6		-40.5			
	収益	-60.2		-40.7		-46.9		-50.0		-58.2		-43.8		-38.8		-48.1			
	販売価格	-36.9		-25.6		-27.2		-23.4		-41.8		-26.1		-20.0		-13.0			
雇用	残業時間	-20.2	-16.9	-15.7	-20.2	-15.6	-9.6	-21.1	-13.2	-10.3	-18.4	-18.1	-14.3	-1.3	-7.2	-12.8	-8.9		-15.8
	人手	-4.8	-15.7	-21.4	-8.3	-3.9	-21.4	-11.8	-7.9	-8.8	-18.4	-8.0	-5.1	-7.6	-12.5	-17.9	-11.4		-15.4
借入金	借入難易度	-11.0		-14.5		-11.8		-23.4		-18.2		-18.6		-1.3		-14.9			
	借入をした(%)	28.2	23.7	26.5	14.9	28.4	14.3	31.6	15.6	27.7	21.9	28.7	12.8	24.1	15.3	22.7	11.8		22.7
	借入をしな(%)	71.8	76.3	73.5	85.1	71.6	85.7	68.4	84.4	72.3	78.1	71.3	87.2	75.9	84.7	77.3	88.2		89.9
有効回答事業所数		90		87		84		82		88		89		85		82			

注:各項目の右側は、前期調査における予想(計画)値です。

項目	調査期		23年		24年		24年		24年		25年		25年		25年		対 前期比	25年 10~12月期	
	10~12月期	1~3月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期					
設備 投資 動向 (%)	現在の設備	-15.7	-22.0	-26.5	-16.9	-27.6	-27.7	-17.6	-24.3	-17.1	-18.7	-11.8	-17.8	-17.7	-13.3	-15.8	-13.3		-15.8
	実施した	22.0	15.4	18.1	17.3	20.0	17.1	29.7	24.7	15.8	23.2	22.7	11.0	20.0	20.2	27.6	20.2		20.5
	事業用地・建物	2.4	0.0	3.6	2.5	1.3	1.2	1.4	3.9	0.0	2.9	4.5	0.0	3.8	3.6	6.6	3.6		1.4
	機械・設備の新・増設	3.7	2.6	3.6	1.2	5.3	7.3	8.1	3.9	3.9	2.9	3.4	2.7	6.3	0.0	3.9	0.0		4.1
	機械・設備の更改	7.3	3.8	4.8	3.7	12.0	6.1	6.8	7.8	5.3	2.9	9.1	2.7	5.0	8.3	9.2	8.3		8.2
	事務機器	13.4	2.6	8.4	8.6	6.7	2.4	14.9	3.9	10.5	7.2	5.7	4.1	12.5	7.1	5.3	7.1		4.1
	車両	6.1	9.0	4.8	3.7	9.3	3.7	9.5	10.4	2.6	11.6	9.1	4.1	6.3	8.3	10.5	8.3		8.2
その他	1.2	2.6	2.4	1.2	0.0	2.4	2.7	5.2	0.0	1.4	0.0	0.0	2.5	0.0	1.3	0.0		2.7	
実施しない	78.0	84.6	81.9	82.7	80.0	82.9	70.3	75.3	84.2	76.8	77.3	89.0	80.0	79.8	72.4	79.8		79.5	
経営上の 問題点 (%)	売上の停滞・減少	70.6		67.8		63.9		70.9		67.1		67.0		60.0		60.8			
	人手不足	7.1		6.9		7.2		7.6		12.2		4.5		11.3		6.3			
	同業者間の競争の激化	23.5		29.9		25.3		27.8		24.4		26.1		27.5		21.5			
	大型店との競争の激化	18.8		18.4		16.9		16.5		14.6		17.0		13.8		16.5			
	輸入製品との競争の激化	2.4		1.1		0.0		0.0		0.0		1.1		1.3		2.5			
	利幅の縮小	20.0		24.1		25.3		25.3		24.4		30.7		20.0		22.8			
	取扱商品の陳腐化	9.4		5.7		8.4		7.6		3.7		6.8		5.0		6.3			
	販売商品の不足	8.2		2.3		4.8		3.8		6.1		5.7		6.3		5.1			
	販売納入先からの値下げ要請	2.4		0.0		2.4		2.5		2.4		3.4		3.8		2.5			
	仕入先からの値上げ要請	5.9		6.9		6.0		6.3		3.7		11.4		6.3		11.4			
	人件費の増加	10.6		5.7		13.3		3.8		7.3		12.5		7.5		11.4			
	人件費以外の経費の増加	5.9		6.9		3.6		1.3		3.7		10.2		6.3		7.6			
	取引先の減少	16.5		16.1		19.3		19.0		31.7		20.5		23.8		24.1			
	商圏人口の減少	3.5		4.6		3.6		2.5		6.1		4.5		10.0		5.1			
	商店街の集客力の低下	23.5		16.1		16.9		24.1		22.0		21.6		23.8		20.3			
	店舗の狭小・老朽化	8.2		17.2		7.2		5.1		7.3		5.7		2.5		8.9			
	代金回収の悪化	0.0		0.0		3.6		3.8		2.4		1.1		0.0		3.8			
地価の高騰	1.2		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0				
駐車場の確保難	2.4		1.1		2.4		3.8		0.0		2.3		0.0		2.5				
天候の不順	4.7		11.5		9.6		7.6		3.7		9.1		7.5		12.7				
地場産業の衰退	5.9		2.3		7.2		7.6		7.3		4.5		8.8		8.9				
大手企業・工場の縮小・撤退	4.7		5.7		4.8		6.3		4.9		1.1		1.3		1.3				
その他	2.4		2.3		1.2		2.5		1.2		2.3		1.3		2.5				
問題なし	1.2		4.6		3.6		3.8		1.2		0.0		6.3		5.1				
重点 経営 施策 (%)	品揃えを改善する	26.2		29.4		30.4		19.5		24.4		28.7		23.8		29.9			
	経費を節減する	50.0		52.9		55.7		53.2		59.0		56.3		46.3		57.1			
	宣伝・広報を強化する	15.5		24.7		21.5		14.3		12.8		24.1		18.8		19.5			
	新しい事業を始める	11.9		5.9		12.7		15.6		14.1		16.1		20.0		14.3			
	店舗・設備を改装する	8.3		14.1		8.9		7.8		5.1		4.6		2.5		9.1			
	仕入先を開拓・選別する	4.8		9.4		19.0		14.3		9.0		11.5		16.3		16.9			
	営業時間を延長する	1.2		1.2		1.3		1.3		0.0		2.3		2.5		3.9			
	売れ筋商品を取扱う	20.2		24.7		21.5		24.7		29.5		19.5		15.0		29.9			
	商店街事業を活性化させる	8.3		10.6		5.1		7.8		6.4		10.3		7.5		5.2			
	機械化を推進する	0.0		1.2		2.5		1.3		0.0		1.1		0.0		0.0			
	人材を確保する	10.7		15.3		10.1		10.4		11.5		9.2		15.0		15.6			
	パート化を図る	6.0		2.4		5.1		3.9		2.6		5.7		3.8		5.2			
	教育訓練を強化する	15.5		17.6		10.1		15.6		9.0		14.9		13.8		7.8			
	輸入品の取扱いを増やす	0.0		1.2		0.0		1.3		0.0		1.1		1.3		1.3			
不動産の有効活用を図る	3.6		3.5		3.8		2.6		3.8		2.3		6.3		5.2				
その他	2.4		0.0		1.3		1.3		1.3		1.1		1.3		1.3				
特になし	11.9		8.2		11.4		11.7		11.5		10.3		11.3		10.4				
有効回答事業所数	90		87		84		82		88		89		85		82				

## 調査の概要

1. 調査時期           平成 25 年 10 月
2. 調査方法           郵送アンケート調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	250	179
小 売 業	190	82
合 計	440	261

大田区産業経済部産業振興課  
〒144-0035 東京都大田区南蒲田一丁目 20 番 20 号  
TEL 03(3733)6181